

データヘルス計画

第3期計画書

最終更新日：令和6年03月29日

豊田合成健康保険組合

STEP 1-1 基本情報

組合コード	57101
組合名称	豊田合成健康保険組合
形態	単一
業種	化学工業・同類似業

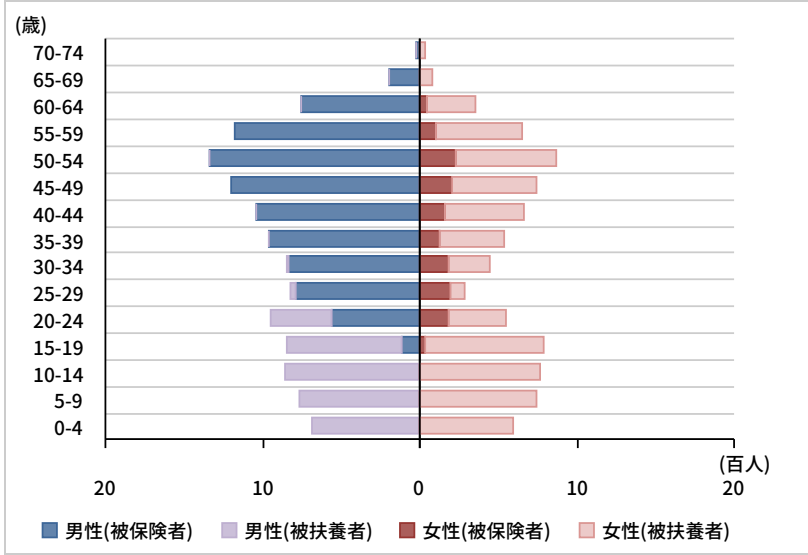
	令和6年度見込み	令和7年度見込み	令和8年度見込み
被保険者数 * 平均年齢は 特例退職被保 険者を除く	10,398名 男性85.9% (平均年齢44.1歳) * 女性14.1% (平均年齢39.4歳) *	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *
特例退職被保険 者数	0名	-名	-名
加入者数	20,309名	-名	-名
適用事業所数	16カ所	-カ所	-カ所
対象となる拠点 数	93カ所	-カ所	-カ所
保険料率 *調整を含む	95.4% ^{〇〇}	-% ^{〇〇}	-% ^{〇〇}

		健康保険組合と事業主側の医療専門職					
		令和6年度見込み		令和7年度見込み		令和8年度見込み	
		常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)
健保組合	顧問医	0	0	-	-	-	-
	保健師等	1	0	-	-	-	-
事業主	産業医	0	13	-	-	-	-
	保健師等	17	2	-	-	-	-

		第3期における基礎数値 (令和4年度の実績値)	
特定健康診査実施率 (特定健康診査実施者数÷ 特定健康診査対象者数)	全体	7,680 / 8,778 = 87.5 %	
	被保険者	5,327 / 5,457 = 97.6 %	
	被扶養者	2,353 / 3,321 = 70.9 %	
特定保健指導実施率 (特定保健指導実施者数÷ 特定保健指導対象者数)	全体	1,223 / 1,466 = 83.4 %	
	被保険者	1,093 / 1,256 = 87.0 %	
	被扶養者	140 / 210 = 66.7 %	

		令和6年度見込み		令和7年度見込み		令和8年度見込み	
		予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)
保健事業費	特定健康診査事業費	2,885	277	-	-	-	-
	特定保健指導事業費	44,285	4,259	-	-	-	-
	保健指導宣伝費	26,546	2,553	-	-	-	-
	疾病予防費	275,672	26,512	-	-	-	-
	体育奨励費	9,756	938	-	-	-	-
	直営保養所費	214	21	-	-	-	-
	その他	21,206	2,039	-	-	-	-
	小計 …a	380,564	36,600	0	-	0	-
経常支出合計 …b	7,070,347	679,972	-	-	-	-	
a/b×100 (%)	5.38		-	-	-	-	

令和6年度見込み



令和7年度見込み



令和8年度見込み



男性（被保険者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	113人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	555人	25～29	785人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	838人	35～39	961人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	1,044人	45～49	1,205人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	1,333人	55～59	1,182人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	749人	65～69	198人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	20人			70～74	-人			70～74	-人		

女性（被保険者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	39人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	180人	25～29	196人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	184人	35～39	124人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	162人	45～49	208人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	234人	55～59	108人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	47人	65～69	5人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	0人			70～74	-人			70～74	-人		

男性（被扶養者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	684人	5～9	770人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	858人	15～19	737人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	383人	25～29	38人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	9人	35～39	5人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	1人	45～49	0人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	3人	55～59	0人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	4人	65～69	5人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	2人			70～74	-人			70～74	-人		

女性（被扶養者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	592人	5～9	745人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	763人	15～19	755人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	362人	25～29	94人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	260人	35～39	410人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	501人	45～49	539人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	643人	55～59	544人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	308人	65～69	77人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	39人			70～74	-人			70～74	-人		

基本情報から見える特徴

- 加入者のボリュームゾーン：50-54歳（～2021年度 45-50歳）
- 本人の男女比：男性 85.9% 女性 14.1%（2018年度 男性87.6% 女性12.4%）
- 扶養率：0.97（2018年度 1.14 2020年度 1.07）
- 40歳未満の本人（若年層）の占める割合：37.6%（2018年度 37.6% 2020年度 38.9%）

STEP 1-2 保健事業の実施状況

保健事業の整理から見える特徴

※事業所の取組については、母体事業所の主要取組を記載

・事業所と健保ともに「自らが健康になるための意識・行動変容を促す」ことを目的とした取組を実施（共働実施可能な取組が多い）

事業の一覧

職場環境の整備	
保健指導宣伝	事業所トップ訪問
予算措置なし	健幸経営協議会への参画
予算措置なし	健康食推進会議への参画
予算措置なし	健康経営協議会への参画
加入者への意識づけ	
保健指導宣伝	機関誌の発行
保健指導宣伝	小冊子（健康一般）配布
保健指導宣伝	新入社員教育（小冊子「社会保険の知識」を活用）
保健指導宣伝	ホームページの運営
保健指導宣伝	健康情報提供ツール（マイページ）の設置
保健指導宣伝	ジェネリック医薬品の使用促進
疾病予防	キャリアデザイン研修内での健康教育
個別の事業	
特定健康診査事業	特定健康診査
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	育児月刊誌の配布
疾病予防	人間ドック（レディースドック含む）
疾病予防	遠隔地巡回人間ドック
疾病予防	脳ドック費用補助
疾病予防	歯科予防対策
疾病予防	郵送検診
疾病予防	2次検査受診促進活動
疾病予防	生活習慣病等重症化予防事業（糖尿病重症化予防）
疾病予防	家庭常備薬及び歯科用品の斡旋
疾病予防	インフルエンザ予防接種費用補助
疾病予防	禁煙支援
体育奨励	テーマパークを歩こう！IN東山動植物園
体育奨励	フィットネスルーム運営
その他	契約保養所
事業主の取組	
1	定期健康診断
2	定期健康診断事後措置に伴う個別指導（特保初回面談含む）
3	健康経営優良法人（ホワイト500）取得
4	健幸推進協議会
5	ストレスチェック
6	職場単位の健康づくり活動
7	全社駅伝大会
8	キャリアデザイン研修
9	健康チャレンジ8
10	健康教育

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業目標	対象者			事業費(千円)	振り返り			注2) 評価	
				対象事業所	性別	年齢		対象者	実施状況・時期	成功・推進要因		課題及び阻害要因
職場環境の整備												
保健指導宣伝	1	事業所トップ訪問	・事業所の特性を踏まえた健康情報を提供し、「健康経営」「コラボヘルス」の取組み活性化を後押し。	一部の事業所	男女	18～74	加入者全員	1,777	・訪問状況：13事業所/14事業所中の訪問完了（残り1事業所は23年4月に実施予定） ・健康経営優良法人新規認定：3事業所 ・コラボ事業：2件（一榮工業：定健時の歯科健診同時実施）（TGロジ：健康イベントでの健保ブース出展）	・健診および問診データの解析結果や、保健事業の参加状況から、改善いただきたい健康課題だけでなく対応策までを提示できた。 ・工場見学や食堂メニューの確認を行ったことで各社の実態を確認できた。	・各社の「産業医」が、従業員の健康に関する相談先として十分機能していない。 ・健保が行う健康施策に関する情報が行き届いていない（機関誌やホームページの情報発信だけでは不十分）	4
予算措置なし	1,5	健康経営協議会への参画	・母体事業所の従業員の健康増進に関する諸テーマについて、その推進と課題のすり合わせ ・医療費実態や健康情報を提供し、保健事業の必要性の理解協力を得る ・健康経営銘柄の認定取得および健康チャレンジ8の目標達成に向けた諸施策の協業	母体企業	男女	18～74	被保険者	0	・年3回実施（6、9、12月）	・母体事業所の健康経営への参画（ホワイト500の取得）	・特になし	5
	1,2,5	健康食推進会議への参画	・母体事業所の65歳定年制の導入に伴い、社員一人ひとりが、健康で生き生きと働ける職場環境づくりの一環として取り組みに参画	母体企業	男女	18～74	被保険者	0	・会議への出席：年10回 ・機関誌（8月号）にて、会社の取り組みや健康食メニューを紹介	・母体事業所の健康経営への参画 ・減塩メニューの推奨	・特になし	5
	1,2	健康経営協議会への参画	・健康経営の一連の流れを可視化（健康投資活動の効率的かつ効果的な推進） ・母体従業員の「アブゼンティーズムおよびプレゼンティーズムの低減」と「エンゲージメントの向上」	母体企業	男女	18～74	被保険者	0	・実施時期：年5回（5・6・8・10・12・2月） ・「戦略マップ」の社外公開（7月） ・健康投資の明確化（プレゼンティーズムの測定方法協議）	・母体事業所の健康経営への参画	・特になし	5
加入者への意識づけ												
保健指導宣伝	2,5	機関誌の発行	・健康保険制度の周知 ・保健事業の紹介と募集案内、ヘルスリテラシーの促進を訴求	全て	男女	18～74	被保険者	14,147	・発行回数：4回/年（4、8、11、1月号） ・1月号に、レディスドックの重要性および、健保HPに掲載の女性情報サイトを紹介。 ・母体が推進する「健康チャレンジ8」の項目とリンクした記事を掲載。	・保健事案内や健康づくり疾病予防のヒントなどを随時紹介。 ・事業所の健康づくり活動や、会社のクラブチームに所属する選手の健康法など、読み手が親しみを感じられる記事を掲載。	・特になし	5
	2,5	小冊子（健康一般）配布	・健康保険制度や健康づくりに関するテーマについて、イラストを使いながら判りやすく伝える（全16頁建） ・同業種の健保間での健康づくり方策等の情報共有化	全て	男女	18～74	被保険者	2,233	・発行回数：1回/年（機関誌11月号に同封） ・内容：「新生活様式美術館」一名画と一緒に健康知識をアップデート	・加入者の健康づくりに役立つ情報を冊子にまとめ提供できた。	・特になし	5
	2,5,7	新入社員教育（小冊子「社会保険の知識」を活用）	・健康保険の一般的な知識や当健保が実施する保健事業をまとめたオリジナル資料とあわせ配布し説明	全て	男女	18～24	被保険者,基準該当者	83	・年1回（4月） ・母体の新入社員（約200名）を対象に、予め撮影した説明動画（30分）を上映し教育を実施。 ・母体以外の新入社員には、人数分のテキスト一式を事業所宛に送付。	・オリジナル資料と併用することで、当健保の加入メリットを分かりやすく紹介できた。 ・歯の重要性を伝える動画を追加で上映し、歯科健診の重要性を訴えることができた。	・特になし	5
	2,5	ホームページの運営	・健康保険制度の紹介、適用・給付手続きの案内、健保申請書類のダウンロード、保健事業の案内など、広域且つ公平な広報媒体として活用	全て	男女	18～74	加入者全員	5,048	・利用者数：延べ21,159人/年	・定期的に掲載内容をアップデート ・機関誌（裏表紙）にてホームページ活用法を紹介	・特になし	5
	2,4,5,7	健康情報提供ツール（マイページ）の設置	・健康の見える化（保健事業の参加記録、健診結果のグラフ化）	全て	男女	0～74	加入者全員	574	・更新回数：12回/年（人間ドックの受診結果、ジェネリック差額通知、医療費通知を毎月更新） ・2023年度以降（井之口ドック運営終了後）の申込方法案内ページ新規作成：3月	・主要な保健事業（人間ドック/レディスドック）の申込媒体として活用 ・機関誌を活用しホームページの便利機能を毎号紹介	・WEBを利用しない方への情報提供方法の工夫と利用促進	5

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業目標	対象者				事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
	2,7	ジェネリック医薬品の使用促進	・ジェネリック使用率：80%以上	全て	男女	0～74	基準該当者	0	<ul style="list-style-type: none"> ・書面通知：年2回（8月は高血圧72名、3月はアレルギー性鼻炎14名に案内） ・Web公開：毎月1回（差額が500円以上ある方） ・新入社員教育内でのジェネリック使用促進に向けた講義および切替シールの配布：4月 ・新規保険証発行時にジェネリックシールと利用案内を同封：毎月（都度） ・切替効果確認のためのアンケート：3月（14人を対象に実施→回答5名） 	<ul style="list-style-type: none"> ・書面案内を「高血圧」「アレルギー性鼻炎」に疾病を絞り案内。 ・アンケートにより切替しない理由が確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェネリック医薬品の品質不安がある方が多い ・医師や薬剤師に切替拒否された経験や、医師に確認しずらさを感じている方が多い。 	5
疾病予防	2,5	キャリアデザイン研修内での健康教育	<ul style="list-style-type: none"> ・健康リテラシーの向上 ・健保の健康づくり活動への理解 	母体企業	男女	30～55	被保険者	0	<ul style="list-style-type: none"> ・実施回数：9回/年（各回1時間） ・対象：40歳、55歳到達の母体従業員 	<ul style="list-style-type: none"> ・母体人事部主催の研修内（終業時間内）にて実施するため、対象者全員が受講可能 	・特になし	5
個別の事業												
特定健康診査事業	3,4	特定健康診査	・健診の利便性を図り、特に被扶養者の特定健診未受診者を減少させ、健康意識を向上させる	全て	男女	40～74	加入者全員	1,803	<ul style="list-style-type: none"> ・健診未申込者への健診予定アンケート実施：4月 ・アンケートの回答に基づいた個別DM送付および未回答者への特定健診の受診案内送付：6月 ・パート健診提出依頼：7月 ・パート健診項目不足者への特定健診案内：都度（通年） ・新規加入時の健診希望者へ案内送付：都度（通年） 	<ul style="list-style-type: none"> ・被扶養者への健診受診調査を（7月→4月）に前倒したことで、回答結果に基づくフォローを早期化できた。 ・調査の回答率を上げるため、返信用封筒を同封した。 ・被扶養者の資格確認調査にあわせ、パート先で受診した健診結果の提出を依頼。 	・特定健康診査の認知不足向上	4
特定保健指導事業	3,4	特定保健指導	・特定健康診査（定期健康診断、人間ドック含む）の結果から、生活習慣病の発症リスクが高い方に対し、保健師等が生活習慣改善をサポート。	全て	男女	40～74	基準該当者	28,683	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT特保プログラムの確実な実施と定着：6月～（3事業所199名実施） ・集団プログラムの追加：7月～（1拠点55名実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に事業所担当者、委託業者と密に打合せを行い、想定できる不具合や事業所側の不安を解消した上でスタート。 ・事業所の負担をかけないよう、健保でICT機器を購入し（複数拠点での実施が可能）。また、ICT機器の設定に関する手順書を作成し、誰でも使用できるよう準備。 	・アプリ/ウェアラブル機器利用に対し、拒否反応を示す方が一定数いる。	5
保健指導宣伝	5,8	育児月刊誌の配布	・新生児およびその母親の健康管理	全て	男女	18～74	基準該当者	100	<ul style="list-style-type: none"> ・配付人数：延べ55人/年 	<ul style="list-style-type: none"> ・読みやすさ、月齢や季節にあった健康管理や育児の困り事について掲載されている点が好評。 	・特になし	5

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業目標	対象者				事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
疾病予防	2,3	人間ドック（レディースドック含む）	・加入者の健康状態の把握 ・30歳から増加傾向にある「新生物」を早期発見治療につなげる	全て	男女	30～74	加入者全員	177,778	<ul style="list-style-type: none"> ・受診者数(30才以上)：5,202人（人間ドック_3,260人、レディースドック_1,942人） ・直営診療所の人間ドック運営終了対応 →新規健診機関の追加：1月（小牧市民病院） →利用者へ、居住地に基づいた健診機関の紹介：11月 ・節目対象者への個別DM送付：7月（母体 人事部に協力依頼） ・扶養家族への個別DM送付：4、7月（特定健診案内含） ・新規加入者（扶養家族）に健診案内の送付：都度（通年） ・事業所へ健診代用希望者の健診データ提供：毎月：1事業所、5月：6事業所（年1回） ・生活習慣病リスクレポート発行（スギ薬局）：6、9、12、3月 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規契約病院は、井之口診療所の近郊かつ居住者は多いが契約健診機関がない地域（尾張北部）から選定。 ・2023年度の直営ドック終了を見据え、当該施設利用者（461人）に対し、DM等で丁寧にアナウンスしたことで申込率低下を抑制。（23年3月末時点の申込率：72%（323人）） 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクレポート受取者の行動変容検証数が少数のため引き続き検証が必要 ・健診未受診層への効果的な受診勧奨 	3
	3	遠隔地巡回人間ドック	・加入者の健康状態の把握 ・30歳から増加傾向にある「新生物」を早期発見治療につなげる	一部の事業所	男女	30～74	加入者全員	7,110	<ul style="list-style-type: none"> ・受診者数：279人/年 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所健診との共催 ・事業所担当者からの受診勧奨 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日時/場所が限定 ・就業時間内の受診となるので、胃がん検診（X線）を未受診者が多い ・健診項目が標準化ができていない ・契約病院や遠隔地ドックの受診が年々増加 	4
	2,3	脳ドック費用補助	・脳疾患の早期発見	全て	男女	0～74	加入者全員	6,577	<ul style="list-style-type: none"> ・受診者数：377人/年 ・人間ドック一斉募集時に追加検査として申込みも可能（健保で予約手配） 	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病の早期発見 ・人間ドックの追加検査扱いとすることで、周知が行き届き、結果、申込者数の増加につながった。また、補助金申請書（受付済）を発行し、申請手続きを簡素化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果検証が未実施 ・受診促進は必要だが、毎年受診が必要であるかガイドする（適正頻度を考慮して案内） 	5
	2,3,4	歯科予防対策	・愛知県歯科医師会の歯科健診プログラムを活用し、歯科疾病の予防と定期的な歯科健診受診の意識定着を図る。（歯科健診プログラムが利用できない加入者は、別途償還払いにて補助対応） （学童期（0～15歳）は、学校等での歯科健診受診機会があることから、対象者を16歳以上に限定）	全て	男女	0～74	加入者全員	13,191	<ul style="list-style-type: none"> ・通年 ・健診受診者数：2,158人 ・定期健康診断時の歯科健診同時実施：1事業所 	<ul style="list-style-type: none"> ・機関誌、ホームページでの周知 ・新入社員教育、キャリアデザイン研修で歯の健康、予防の重要性について啓発。 ・事業所トップ訪問の際、定期健康診断時の歯科健診同時実施の導入を依頼。 ・出張歯科健診の委託先確保（医療法人 旺志会） 	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科（健診・診療）未実施者への受診啓発方法 	4
	2,3,4	郵送検診	・人間ドック等を利用する上で、時間や場所に制約がある加入者に対し、がん等の健康リスク発見のツールとして活用。 ・特に5がんの啓発を目的とし、特別斡旋を実施。	全て	男女	18～74	加入者全員	1,533	<ul style="list-style-type: none"> ・申込者数（7検査）：782人 ・内、大腸がん検査（無償）：443人 	<ul style="list-style-type: none"> ・WEB申込活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間ドック受診者も大腸がん検査を申込みしている（検査の重複） 	4
	2,3,4,6	2次検査受診促進活動	・重症化予防（特に5大がん）	全て	男女	20～74	基準該当者	145	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り（通年） ・2次検査受診率：61%（2022年度確認書送付者の受診率） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各健診機関発行の結果表に、当健保の受診勧奨通知を同封 	<ul style="list-style-type: none"> ・未受診者のフォロー 	4
	3,4	生活習慣病等重症化予防事業（糖尿病重症化予防）	・将来の重大疾病（人工透析等）発症を防ぐため、「糖尿病性腎症」のリスク保持者（未治療/治療中断者）に対し、病気の理解活動と受診勧奨の体制整備	全て	男女	20～74	基準該当者	896	<ul style="list-style-type: none"> ・実施時期：5、8、11、2月（年4回） ・委託人数：22人（当年度分のみ） ・支援人数：15人（前年度フォローアップ分も含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ・データ分析ツール（IQVIA社のCH25）の導入により対象者の受診状況の確認や効果測定が容易となった。 ・委託時期の細分化により、健診日から対象者へ案内が届くまでの期間が短縮され、結果、支援受入れにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	5

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業目標	対象者			事業費(千円)	振り返り			注2) 評価	
				対象事業所	性別	年齢		対象者	実施状況・時期	成功・推進要因		課題及び阻害要因
	2,8	家庭常備薬及び歯科用品の斡旋	・日常の軽い健康不調の改善や健康維持管理に備え、家庭常備薬、健康器具、衛生用品の斡旋。	全て	男女	18～74	被保険者	6,537	・実施時期：年2回（春・秋）※WEB申込み ・申込者数：1回目_521人 2回目_711人	・WEB申込みにより利用者の利便性が向上。 ・購入額が4,000円未満の場合、送料450円が発生。（購入者負担） ・申込方法をWEB限定としたことで、申込者数が減少（対前年比：62.6%（1,967名→1,232名））	2	
	2,3	インフルエンザ予防接種費用補助	・中学生以下を対象としたインフルエンザ予防接種費用の一部を補助。 ・予防接種を励行することでインフルエンザ脳症等の重篤な疾患を予防。	全て	男女	1～15	被扶養者	3,816	・利用者：1,812人（10月～1月接種分）	・接種対象世帯に受診券を送付	・任意接種のため、対象者全員の接種は困難	4
	1,2,5	禁煙支援	・喫煙者が禁煙事業を活用し、禁煙行動を開始し禁煙に成功する	全て	男女	20～75	被保険者	30	・喫煙率が全体平均（29.4%）より高い7事業所に対し、事業所トップ訪問を通じて、更なる喫煙対策の推進と、当健保の禁煙支援補助制度の活用を依頼。	・社長に面着で直接働きかけを実施。	・事業所禁煙により、喫煙者の把握が難しい。 ・現在の喫煙者は禁煙はしないと考えている人が多いと思われ、その意識を変える施策が難しい。	1
体育奨励	2,5	テーマパークを歩こう！IN 東山動植物園	・家族で運動（歩くこと）の楽しさと心身のリフレッシュを実感いただく	一部の事業所	男女	0～74	加入者全員,その他	1,423	・実施時期：11月（3健保の分散開催：計8回） ・参加者数：1,872人（3健保全体：3,361人）	・参加者インセンティブ（入園券全額負担、園内売店で使用可能な金券（500円/人）の配付、子供の乗り物券配布）	・参加者が愛知県およびその近郊に限られる。	4
	2,5	フィットネスルーム運営	・健康増進、運動習慣化に向け、マシン等を利用し運動促進。	一部の事業所	男女	18～74	加入者全員	5,417	・利用者数：延べ815人/年	・気軽に利用可能なため、利用者のリピート率が高い。 ・マシンの入替えや、ストレッチ教室の開催など新規利用者を開拓。	・利用者が限定的 ・コロナ禍で3ヶ月休館	3
その他	8	契約保養所	・心身のリフレッシュ、健康保持増進	全て	男女	0～74	加入者全員	545	・利用件数：198件/年	・会員外の施設利用も可能 ・WEB申込	・特になし	4

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業

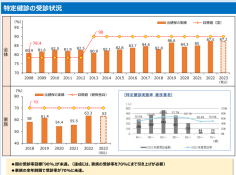

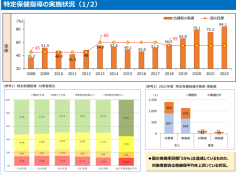
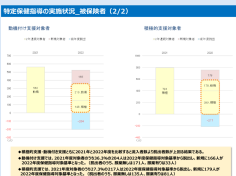


注2) 1. 39%以下 2. 40%以上 3. 60%以上 4. 80%以上 5. 100%

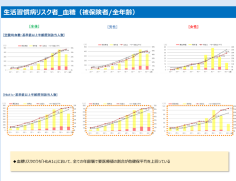






事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
事業主の取組								
定期健康診断	安衛法に基づく健診	被保険者	男女	18～（上限なし）	・受診率 100%	・勤務時間内受診（勤務形態に合わせた受診日の設定）	特になし	無
定期健康診断事後措置に伴う個別指導（特保初回面談含む）	生活習慣における問題に気づき、健康維持できるよう支援。	被保険者	男女	18～（上限なし）	・時期：通年 ・特保の初回面談もあわせて実施	・勤務時間内受診（勤務形態に合わせた指導日の設定）	・特になし	有
健康経営優良法人（ホワイト500）取得	健康経営に熱心である会社であることは、従業員のモチベーションややる気、安心感が生産性向上につながり、最終的には企業業績を押し上げる原動力とするため。	被保険者	男女	18～（上限なし）	・時期：毎年10月申請（3月認定）	・母体事業所と健保が協同で従業員の健康管理に取り組んでいるため	・情報公開の更なる強化	有
健幸推進協議会	4者（安推部・人事部・労組・健保）が集まり、母体従業員の健康増進施策について協議・課題をすり合わせ	被保険者	男女	18～（上限なし）	3ヶ月に1回	参画メンバーの持ち場・立場にて、情報収集/報告/協議すべき内容が付議できる。	特になし	有
ストレスチェック	・労働者のメンタルヘルス不調の未然防止 ・自身のストレスへの気づき ・ストレスの原因となる職場環境の改善	被保険者	男女	18～（上限なし）	・時期：年1回（4月） （職制経由で質問票を配布・回収）	受検方法の工夫により希望者に対する面談リードタイムの短縮	未把握	無
職場単位の健康づくり活動	職場・従業員の健康意識・行動を促す	被保険者	男女	18～（上限なし）	・活動期間：9～11月の3か月間 ・生活習慣改善に関する活動テーマを職場単位で登録、実践。	・優秀な活動事例に対し表彰（賞品授与）	・特になし	無
全社駅伝大会	職場の一体感（コミュニケーション）の醸成と従業員の健康意識の向上・体力づくり	被保険者	男女	18～（上限なし）	・実施時期：11月 ・社内外合わせて105チームが参加（社内：67チーム、社外：38チーム）	・感染症対策として無観客で実施（WEB配信の実施）	・特になし	無

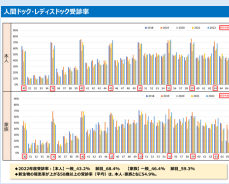
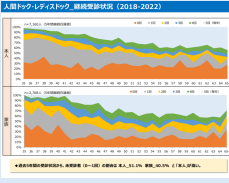
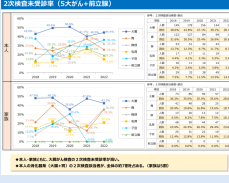



事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
キャリアデザイン研修	・節目年齢でのライフイベントから、自己の健康・資産についてこれまでの振り返りと今後について考える	被保険者	男女	30 ～ 55	・実施回数：通年（9回） ・対象：40歳、55歳の従業員	・年代に沿った資料構成や講義内容	・特になし	有
健康チャレンジ8	健康のKPIとして、8項目（BMI・朝食・飲酒・喫煙・間食・運動・睡眠・ストレス）の目標値を設定。職場に対しても平均値をフィードバック	被保険者	男女	18 ～ （上限なし）	平均スコア5.5 （前年日0.2ポイントアップ）	啓発活動の強化 （ポスター・社内報・健診時の声掛け）	弱点項目の推進 （運動習慣）	無
健康教育	メタボ予防や、がん予防などライフステージに合わせた健康教育を実施し、従業員のヘルスリテラシーの向上させる	被保険者	男女	36 ～ 44	・7～11月 ・36歳と44歳の従業員 （受講率90%以上）	年齢に応じた健康課題をわかりやすく解説、保健師が問いかけをしながら自分事として考えられるような内容の工夫	特になし	無

STEP 1-3 基本分析

登録済みファイル一覧

記号	ファイル画像	タイトル	カテゴリ	コメント
ア		特定健診の受診状況	特定健診分析	・国の目標値「受診率 90%」は未達（目標達成には、家族の受診率70%以上が必要）
イ		新規加入者割合_年齢層別（2018～2022年度の加入者状況）	加入者構成の分析	・家族の 25～39歳（配偶者90%）と 65歳以上（配偶者48% 父母52%）の新規加入率※が高い ※2018年度と2022年度の在籍者の顔ぶれを調査
ウ		特定保健指導の実施状況	特定保健指導分析	・国の目標値「実施率55%」は達成しているものの、対象者割合は他健保平均を上回っている
エ		特定保健指導対象者の経年変化（支援区分別）	特定保健指導分析	・2021年度と2022年度の比較では、特定保健指導対象者数は、積極的支援・動機付き支援ともに減少（新規流入者数<脱出者数） ・2年連続対象者は連続対象者の割合は、積極的支援で 72.7%、動機付け支援で 63.7% とリピーターが多い
オ		生活習慣病関連_医療費・罹患者数	医療費・患者数分析	・生活習慣病関連疾患の医療費トップは「糖尿病」で、40歳以降罹患者が急増 ・「高血圧症」「高脂血症」の罹患者が、加入者全体の10%を占める
カ		生活習慣病リスク_肥満（本人）	健康リスク分析	・「腹囲」「BMI」ともに、30歳以降、基準値以上該当者割合が他健保平均を上回っている

<p>キ</p> 	<p>生活習慣病リスク_血糖（本人）</p>	<p>健康リスク分析</p>	<p>・「HbA1c」は、全ての年齢層で、要医療値の該当者割合が他健保平均を上回っている</p>
<p>ク</p> 	<p>生活習慣病リスク_血圧（本人）</p>	<p>健康リスク分析</p>	<p>・「血圧」は、全ての年齢層で、要医療値の該当者割合が他健保平均を上回っている</p>
<p>ケ</p> 	<p>生活習慣病リスク_脂質（本人）</p>	<p>健康リスク分析</p>	<p>・「脂質（中性脂肪）」は、全ての年齢層で、要医療値の該当者割合が他健保平均を上回っている</p>
<p>コ</p> 	<p>問診結果_運動習慣（本人）</p>	<p>健康リスク分析</p>	<p>・「歩行または同等の身体活動を1時間/日以上”実施していない人“」の割合が、女性の全年齢層で他健保平均を上回っている ・「1回30分以上の運動を週2回以上”実施していない人“」の割合は他健保平均並</p>
<p>サ</p> 	<p>問診結果_食習慣（本人）</p>	<p>健康リスク分析</p>	<p>・若年層において朝食の欠食率がやや高い（他健保平均は下回っている）</p>
<p>シ</p> 	<p>問診結果_喫煙（本人）</p>	<p>健康リスク分析</p>	<p>・男女とも30代の喫煙率が他健保平均を上回っている ・男性の30～54歳の喫煙率が3割以上と高い（全国平均2019_男性27.1%、女性7.6%、男女計16.7%）</p>
<p>ス</p> 	<p>悪性新生物_医療費・罹患者数</p>	<p>医療費・患者数分析</p>	<p>・「消化器系（胃がん・大腸がんなど）」医療費・罹患者数は減少傾向にあるが、「乳がん」医療費・罹患者数は増加傾向</p>

セ		ドック受診状況_年齢別	健康リスク分析	<ul style="list-style-type: none"> ・受診料が無料となる節目年齢でも受診率は本人 68.4% 家族 59.3% ・新生物の罹患率が上がる50歳以上の受診率（平均）は、本人・家族ともに54.9%
ソ		ドック継続受診状況_年齢別	健康リスク分析	<ul style="list-style-type: none"> ・継続加入者（7,160人）の過去5年間の受診状況を見ると、未受診者（0～1回）割合は 本人 51.1% 家族 40.5%で本人が高い ・性別では、本人男性 53.2% 本人女性 33.5%と「本人男性」の 未受診率が高い
タ		2次検査 未受診率（5大がん+前立腺）	健康リスク分析	<ul style="list-style-type: none"> ・本人 家族ともに、大腸がん検査の2次検査未受診率が高い。 ・本人の消化器系（大腸+胃）の2次検査該当者が、全体の約7割を占める。（家族は5割）
チ		疾病分類別総医療費	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ・調剤費が年々増加傾向 ・疾病別の医療費、受診率ともに「歯科」がファースト1で年々増加。
ツ		歯科健診事業対象者（16歳以上）の 歯科医院 および 健診受診状況	健康リスク分析	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の全年齢層において、未受診率が高い（特に40歳未満の若い年代で、歯の健康状態が不明の人が半数以上いる） ・家族の30歳未満において、未受診率が高い
テ		精神疾患_医療費・罹患者数	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ・「統合失調症・妄想障害」「感情障害（うつ病、双極性感情障害 など）」「神経症・ストレス障害」の罹患者数が増加傾向。 ・本人は20代と50代、家族は10代と50代の罹患者数が増加傾向。 ・精神疾患の医療費に変化は見られないが、保険給付（傷病手当金）において、申請者数や支払額の増加が顕著。

STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	ア, イ	<p><特定健康診査></p> <ul style="list-style-type: none"> 2022年度の受診率は87.5%で、国の目標値90%は未達 国の目標値達成には、家族の受診率70%が必要(2022年度：63.3%) 家族の全年齢層が受診率70%に未達(特に40～44歳の半数が未受診) 家族の25～39歳(配偶者90%)と65歳以上(配偶者48% 父母52%)に新規加入者の割合が高い 	➔	<ul style="list-style-type: none"> 家族の健診未申込者に対し、既存の取り組み(新規加入者への健診案内・ドック未申込者への健診受診状況調査)を継続しつつ、未受診者を層別し(岩盤層、不定期受診層)それぞれに合った受診促進活動を実施(特に不定期受診層を定期受診層に移行させるための活動を強化) 新規加入率が高い年齢層には健診受診の必要性を丁寧に案内 	✓
2	ウ, エ	<p><特定保健指導></p> <ul style="list-style-type: none"> 対象者の9割以上が本人 2021年と2022年度を比較すると、積極的支援 動機付き支援ともに対象者数は減少しているが(流入者数<脱出者数)対象者割合は他健保平均をやや上回っている(当健保21.9% 他健保平均_21.0%) 積極的の72.7%、動機付けの63.7%が2年連続指導対象者である(リピーターが多い) 	➔	<ul style="list-style-type: none"> 本人の特保対象者に対し、既存の取り組み(初回集団支援の継続、委託先評価と課題解決等)を継続することで現在の実施率を維持しつつ、対象者を減らす活動とリピーター対策を強化 	✓
3	カ	<p><生活習慣病リスク：肥満></p> <ul style="list-style-type: none"> 腹囲BMIともに、本人の30歳以降において基準値以上該当者割合が他健保平均を上回っている(将来の特定保健指導対象者予備群) 女性の30～34歳 54～59歳の腹囲、30～34歳 40～44歳 50～54歳のBMIの基準値以上該当者割合が他健保平均を上回っている 	➔	<ul style="list-style-type: none"> 40歳未満を含む健診データが、全事業所分取得可能となったため、罹患が増加する前の40歳未満に対し、生活習慣病(糖尿病・高血圧・高脂血症)対策に効果的な新たな取り組みを実施。 医療機関への受診が必要な者を把握し、未治療者への受診勧奨を実施(健康経営推進の観点から、事業所と連携し推進) 	✓
4	オ, キ	<p><生活習慣病リスク：糖尿病></p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病関連疾患の医療費トップは糖尿病で、罹患者数も増加傾向。特に40歳以降で罹患者が急増(対2018年度：医療費27百万円増[130%]) (対2018年度：罹患者132人増[111%]) HbA1cにおいて、全ての年齢層で、要医療値の該当者割合が他健保平均を上回っている 	➔	<ul style="list-style-type: none"> 40歳未満を含む健診データが、全事業所分取得可能となったため、罹患が増加する前の40歳未満に対し、生活習慣病(糖尿病・高血圧・高脂血症)対策に効果的な新たな取り組みを実施。 医療機関への受診が必要な者を把握し、未治療者への受診勧奨を実施(健康経営推進の観点から、事業所と連携し推進) 	✓
5	オ, ク	<p><生活習慣病リスク：高血圧></p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病関連疾患の罹患率割合トップは高血圧症で、特に40歳以降急増(加入者全体の10%が罹患) 全ての年齢層で、要医療値の該当者割合が他健保平均を上回っている。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> 40歳未満を含む健診データが、全事業所分取得可能となったため、罹患が増加する前の40歳未満に対し、生活習慣病(糖尿病・高血圧・高脂血症)対策に効果的な新たな取り組みを実施。 医療機関への受診が必要な者を把握し、未治療者への受診勧奨を実施(健康経営推進の観点から、事業所と連携し推進) 	✓

6	オ, ケ	<p><生活習慣病リスク：脂質></p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病関連疾患の罹患率割合トップは脂質異常症で、特に40歳以降急増 (加入者全体の10%が罹患) 中性脂肪は、全ての年齢層で、要医療値の該当者割合が他健保平均を上回っている 	➔	<ul style="list-style-type: none"> 40歳未満を含む健診データが、全事業所分取得可能となったため、罹患率が増加する前の40歳未満に対し、生活習慣病(糖尿病・高血圧・高脂血症)対策に効果的な新たな取り組みを実施。 医療機関への受診が必要な者を把握し、未治療者への受診勧奨を実施(健康経営推進の観点から、事業所と連携し推進) 	✓
7	コ	<p><生活習慣：運動></p> <ul style="list-style-type: none"> 「歩行または同等の身体活動を1時間/日以上」実施していない人“」の割合が、女性の全年齢層で他健保平均を上回っている 	➔	<ul style="list-style-type: none"> 健康経営の一環として、会社から従業員に「正しい生活習慣の重要性」を働きかけできるツールや保健事業メニューを整備(既存の個々への働きかけに加え、事業所への働きかけを強化し健康経営を後押し) 機関誌やホームページを通じ、リテラシー向上につながる情報提供を行う 	✓
8	サ	<p><生活習慣：食事></p> <ul style="list-style-type: none"> 若年層において朝食の欠食率がやや高い (他健保平均は下回っている) 20~24歳の本人女性で「就寝前夕食をとることが週3回以上ある人」の割合が、他健保平均と比較しやや高い。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> 健康経営の一環として、会社から従業員に「正しい生活習慣の重要性」を働きかけできるツールや保健事業メニューを整備(既存の個々への働きかけに加え、事業所への働きかけを強化し健康経営を後押し) 機関誌やホームページを通じ、リテラシー向上につながる情報提供を行う 	✓
9	シ	<p><生活習慣：喫煙></p> <ul style="list-style-type: none"> 男女とも30代の喫煙率が他健保平均を上回っている。 男性の30~54歳の喫煙率が3割以上と高い (参考：全国平均_男性 27.1%、女性 7.6%、全体 16.7%) 	➔	<ul style="list-style-type: none"> 健康経営の一環として、会社から従業員に「正しい生活習慣の重要性」を働きかけできるツールや保健事業メニューを整備(既存の個々への働きかけに加え、事業所への働きかけを強化し健康経営を後押し) 機関誌やホームページを通じ、リテラシー向上につながる情報提供を行う 喫煙率の高い事業所に対し、会社として禁煙施策の取り組みを強化いただくよう働きかけを実施。 	✓
10	ス, セ, ソ, タ	<p><重症化予防(新生物)></p> <ul style="list-style-type: none"> 「乳がん」の医療費・罹患率が、本人・家族ともに増加傾向。(対2018:16人増) 「消化器系(胃がん・大腸がんなど)」の罹患率数は減少傾向にあるが、新生物全体の罹患率に占める割合は高い。 ドック受診料無料の節目年齢でも受診率は7割以下 (本人 68.4% 家族 59.3%) 継続加入者(7,160人)の過去5年間の受診状況を見ると、無関心層(0~1回)の割合は本人が高い (本人 51.1% 家族 40.5%) 新生物の罹患率が上がる50歳以上の受診率は、本人・家族ともに54.9%。 本人の消化器系(大腸+胃)における2次検査該当者割合が全体の7割を占める。(家族は5割) 本人・家族ともに、大腸がん検査の2次検査未受診率がワースト1。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> 既存の活動(人間ドックの受診促進)は継続しつつ、受診率が頭打ちの状況にあるため、罹患リスクを考慮した新たながん検診の仕組みをつくる 	✓
11	チ, ツ	<p><歯></p> <ul style="list-style-type: none"> 疾病別の医療費・受診率ともに「歯科」がワースト1で年々増加。 (性別・続柄別いずれもトップ) 本人の全年齢層(特に40歳未満)と、家族の30歳未満において歯の健康状態が不明の方が半数以上いる。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> 既存の活動(歯科健診費用補助、要精密検査者受診勧奨)を継続しつつ、2025年度からはじまる「国民皆歯科健診」を見据え、歯の健康リテラシー向上の取り組み実施と、事業主と連携した受診促進施策の実施。 	✓

12	チ	<p><調剤></p> <ul style="list-style-type: none"> ・調剤費が年々増加 (参考：2022年度 後発医薬品使用割合_83.2%で国の目標値は上回っている) 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の活動（ジェネリック差額通知・セルフメディケーションの啓発）を継続することで現在の水準を維持。
13	テ	<p><メンタル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の20代と50代において「統合失調症・妄想障害」「感情障害（うつ病、双極性障害など）」「神経症・ストレス障害」の罹患数が増加傾向。 ・家族の10代・50代において「感情障害（うつ病、双極性障害など）」「神経症・ストレス障害」の罹患数が増加傾向。 ・保険給付（傷病手当金）において、申請者数や支払額の増加が顕著。 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・本人のメンタル対策は「事業所マター」との考えから、これまで対策未実施であったが、メンタル疾患の罹患数・傷病手当金の受給金額・申請件数が増加傾向にあることから、事業主と連携した取り組みを実施。 ・あわせて、家族の罹患数も増加傾向にあることから、健保独自の取り組みを検討。

基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・加入者のボリュームゾーン：50-54歳 (母体事業所の65歳定年制導入により、今後さらに高齢化が進展) 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の取組みが65歳まで働く人の健康をカバーできるメニューを提供できているかを確認し不足があれば補完（高齢化に伴う疾病対策）
2	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外に適用事業所および母体主要拠点が点在 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地格差が生じないように配慮
3	<ul style="list-style-type: none"> ・被保険者の7割を母体事業所が占める 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・母体事業所の健康推進部門を協働先に位置付け
4	<ul style="list-style-type: none"> ・健康保険組合に専門職（保健師）が1名在席 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病対策を実施する際は、専門的知識と知見のある専門職を巻き込む

保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・健康課題に対応した保健事業を概ね実施できている 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・一部、健康課題に対応していない事業（これまでの経緯で実施）があるため、事業の目的や内容、加入者の利用状況を確認した上で継続可否を判断
2	<ul style="list-style-type: none"> ・特定保健指導以外の生活改善支援（39歳以下）、こころの健康づくりのための事業（メンタル対策）が実施できていない 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所と課題を共有し連携して推進
3	<ul style="list-style-type: none"> ・被保険者への広報手段が限定的（ホームページ・機関誌・DM） 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな広報手段の検討 ・コラボヘルスの一環として、事業所と連携し被保険者へ展開

STEP 3 保健事業の実施計画

事業全体の目的

- 「生活習慣病対策」と「重症化予防」に軸足を置いた活動を通じ、
- ①自己の健康度への関心を高めていただく中で、健康リテラシーの向上と、健康自己管理できる人づくりをねらう。
 - ②疾病の早期発見治療につなげる
(かからなくてもよい医療費を抑制し健全な財政運営に寄与)
 - ③事業主と連携したコラボヘルスの取組みにより、会社の生産性向上と被保険者のQOL向上を後押し。

事業全体の目標

- ・各施策のアウトプット指標アウトカム指標で設定

事業の一覧

職場環境の整備

保健指導宣伝	加入事業所の健康経営の取組みサポート
予算措置なし	健幸推進協議会への参画
予算措置なし	健康食推進会議への参画

加入者への意識づけ

保健指導宣伝	機関誌の発行
保健指導宣伝	小冊子（健康一般）配布
保健指導宣伝	新入社員教育（小冊子「社会保険の知識」を活用）
保健指導宣伝	ジェネリック医薬品の使用促進
その他	ホームページの運営
その他	健康情報ポータルサイトの提供（ヘルシーファミリー倶楽部）
その他	健康情報提供ツールの設置（マイページ）
予算措置なし	節目年齢者への健康教育（キャリアデザイン研修）

個別の事業

特定健康診査事業	特定健康診査
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	健診後の保健指導（39歳以下・服薬者）
保健指導宣伝	育児月刊誌の配布
疾病予防	人間ドック・レディスドックの実施
疾病予防	遠隔地巡回人間ドック
疾病予防	脳ドック費用補助
疾病予防	歯科予防対策
疾病予防	郵送検診
疾病予防	2次検査受診促進活動
疾病予防	生活習慣病等重症化予防事業（糖尿病重症化予防）
疾病予防	家庭常備薬及び歯科用品の斡旋
疾病予防	インフルエンザ予防接種費用補助
疾病予防	禁煙支援
体育奨励	テーマパークを歩こう！IN東山動物園
体育奨励	フィットネスルーム運営
体育奨励	けんぼれんあいちWEBウォーキング
その他	契約保養所

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)						事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画								
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度			
職場環境の整備												アウトカム指標									
保健指導宣伝	1,5	既存	加入事業所の健康経営の取組みサポート	一部の事業所	男女	18～(上限なし)	加入者全員	1	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ	ア,ケ	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所単位のレポートを準備し、健康経営の取組み状況や保健事業の参加状況、保険給付の支給状況(傷病手当金など)から支援の優先度が高い事業所を訪問し意見交換会を実施 ・従業員の健康に資する活動を事業所と協働で推進(委託先の紹介、活動費の一部補助(上限30万円/1事業所あたり)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所：社長、健康推進部門の責任者および担当者 ・健保：常務理事、事務長、保健師、データヘルス担当者 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所トップ訪問 ・健康づくり活動支援(企画への参画、活動費の一部補助) ・健康経営優良法人申請サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所トップ訪問 ・健康づくり活動支援(企画への参画、活動費の一部補助) ・健康経営優良法人申請サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所トップ訪問 ・健康づくり活動支援(企画への参画、活動費の一部補助) ・健康経営優良法人申請サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所トップ訪問 ・健康づくり活動支援(企画への参画、活動費の一部補助) ・健康経営優良法人申請サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所トップ訪問 ・健康づくり活動支援(企画への参画、活動費の一部補助) ・健康経営優良法人申請サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所トップ訪問 ・健康づくり活動支援(企画への参画、活動費の一部補助) ・健康経営優良法人申請サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の特性を踏まえた健康情報を提供し、「健康経営」「コラボヘルス」の取組み活性化を後押し。 	<p>4,606</p>	<ul style="list-style-type: none"> <生活習慣病リスク：肥満> <ul style="list-style-type: none"> ・腹囲BMIともに、本人の30歳以降において基準値以上該当者割合が他健保平均を上回っている(将来の特定保健指導対象者予備群) ・女性の30～34歳 54～59歳の腹囲、30～34歳 40～44歳 50～54歳のBMIの基準値以上該当者割合が他健保平均を上回っている <生活習慣病リスク：糖尿病> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病関連疾患の医療費トップは糖尿病で、罹患数も増加傾向。特に40歳以降で罹患者が急増(対2018年度：医療費 27百万円増[130%]) ・(対2018年度：罹患者 132人増[111%]) ・HbA1cにおいて、全ての年齢層で、要医療値の該当者割合が他健保平均を上回っている <生活習慣病リスク：高血圧> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病関連疾患の罹患率割合トップは高血圧症で、特に40歳以降急増(加入者全体の10%が罹患) ・全ての年齢層で、要医療値の該当者割合が他健保平均を上回っている。 <生活習慣病リスク：脂質> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病関連疾患の罹患率割合トップは脂質異常症で、特に40歳以降急増(加入者全体の10%が罹患) ・中性脂肪は、全ての年齢層で、要医療値の該当者割合が他健保平均を上回っている <生活習慣：運動> <ul style="list-style-type: none"> ・「歩行または同等の身体活動を1時間/日以上”実施していない人”」の割合が、女性の全年齢層で他健保平均を上回っている <生活習慣：食事> <ul style="list-style-type: none"> ・若年層において朝食の欠食率がやや高い(他健保平均は下回っている) ・20～24歳の本人女性で「就寝前夕食をとることが週3回以上ある人」の割合が、他健保平均と比較しやや高い。 <生活習慣：喫煙> <ul style="list-style-type: none"> ・男女とも30代の喫煙率が他健保平均を上回っている。 ・男性の30～54歳の喫煙率が3割以上と高い(参考：全国平均_男性 27.1%、女性 7.6%、全体 16.7%) <重症化予防(新生物)> <ul style="list-style-type: none"> ・「乳がん」の医療費・罹患数が増加傾向。(対2018：16人増) ・「消化器系(胃がん・大腸がんなど)」の罹患数は減少傾向にあるが、新生物全体の罹患数に占める割合は高い。 ・ドック受診料無料の節目年齢でも受診率は7割以下(本人 68.4% 家族 59.3%) ・継続加入者(7,160人)の過去5年間の受診状況を見ると、無関心層(0～1回)の割合は本人が高い(本人 51.1% 家族 40.5%) ・新生物の罹患率が上がる50歳以上の受診率は、本人・家族ともに54.9%。 ・本人の消化器系(大腸+胃)にお

予算科目目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連						
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画												
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度					
													アウトプット指標					アウトカム指標							
																									ける2次検査該当者割合が全体の7割を占める。(家族は5割) ・本人・家族ともに、大腸がん検査の2次検査未受診率がワースト1。 <歯> ・疾病別の医療費・受診率ともに「歯科」がワースト1で年々増加。(性別・続柄別いずれもトップ) ・本人の全年齢層(特に40歳未満)と、家族の30歳未満において歯の健康状態が不明の方が半数以上いる。 <メンタル> ・本人の20代と50代において「統合失調症・妄想障害」「感情障害(うつ病、双極性障害など)」「神経症・ストレス障害」の罹患人数が増加傾向。 ・家族の10代・50代において「感情障害(うつ病、双極性障害など)」「神経症・ストレス障害」の罹患人数が増加傾向。 ・保険給付(傷病手当金)において、申請者数や支払額の増加が顕著。
																									健康経営優良法人申請事業所の割合(【実績値】75% 【目標値】令和6年度:80% 令和7年度:87.5% 令和8年度:100% 令和9年度:100% 令和10年度:100% 令和11年度:100%)健康経営優良法人認定事業所(申請年度) 21年度:3/17事業所【17.6%】(TG、テクノ、ロジ) 22年度:6/17事業所【35.3%】(前年度申請事業所 ウェル、メンテ、健保) 23年度:12/16事業所【68.7%】(前年度申請事業所 一榮、テクノア、TGAP、東日本、オープン、豊信)
																									コラボ費活用事業所数(健康施策実施事業所数)(【実績値】5事業所 【目標値】令和6年度:7事業所 令和7年度:9事業所 令和8年度:10事業所 令和9年度:10事業所 令和10年度:10事業所 令和11年度:10事業所)-
																									0

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連			
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画									
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度		
													アウトプット指標					アウトカム指標				
予算措置なし	1,5	既存	健康推進協議会への参画	母体企業	男女	18～(上限なし)	被保険者	3	イ,ウ,エ,キ,ク,ケ	・3ヶ月に1回(1時間)会議開催	会	ア,イ	<ul style="list-style-type: none"> ・母体事業所の健康推進部門が中心となり、統括産業医含め、人事・労組 ・健保の4者で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回 ・健康スコアリングレポートの説明と健康課題の共有 ・保健事業の必要性の理解協力を得る 	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回 ・健康スコアリングレポートの説明と健康課題の共有 ・保健事業の必要性の理解協力を得る 	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回 ・健康スコアリングレポートの説明と健康課題の共有 ・保健事業の必要性の理解協力を得る 	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回 ・健康スコアリングレポートの説明と健康課題の共有 ・保健事業の必要性の理解協力を得る 	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回 ・健康スコアリングレポートの説明と健康課題の共有 ・保健事業の必要性の理解協力を得る 	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回 ・健康スコアリングレポートの説明と健康課題の共有 ・保健事業の必要性の理解協力を得る 	<ul style="list-style-type: none"> ・母体従業員の「アブセンティーズムおよびプレゼンティーズムの低減」と「エンゲージメントの向上」に向けた推進と課題のすり合わせ ・医療費実態や健康情報を提供し、保健事業の必要性の理解協力を得る ・健康経営優良法人(ホワイト500)や健康経営銘柄の認定取得および健康チャレンジ8の目標達成に向けた諸施策の協業 	<ul style="list-style-type: none"> <生活習慣病リスク：肥満> ・腹囲 BMIともに、本人の30歳以降において基準値以上該当者割合が他健保平均を上回っている(将来の特定保健指導対象者予備群) ・女性の30～34歳 54～59歳の腹囲、30～34歳 40～44歳 50～54歳のBMIの基準値以上該当者割合が他健保平均を上回っている <ul style="list-style-type: none"> <生活習慣病リスク：糖尿病> ・生活習慣病関連疾患の医療費トップは糖尿病で、罹患数も増加傾向。特に40歳以降で罹患者が急増(対2018年度：医療費 27万円円増[130%]) (対2018年度：罹患率 132人増[111%]) ・HbA1cにおいて、全ての年齢層で、要医療値の該当者割合が他健保平均を上回っている <ul style="list-style-type: none"> <生活習慣病リスク：高血圧> ・生活習慣病関連疾患の罹患率割合トップは高血圧症で、特に40歳以降急増(加入者全体の10%が罹患) ・全ての年齢層で、要医療値の該当者割合が他健保平均を上回っている。 <ul style="list-style-type: none"> <生活習慣病リスク：脂質> ・生活習慣病関連疾患の罹患率割合トップは脂質異常症で、特に40歳以降急増(加入者全体の10%が罹患) ・中性脂肪は、全ての年齢層で、要医療値の該当者割合が他健保平均を上回っている <ul style="list-style-type: none"> <生活習慣：運動> ・「歩行または同等の身体活動を1時間/日以上”実施していない人“」の割合が、女性の全年齢層で他健保平均を上回っている <ul style="list-style-type: none"> <生活習慣：食事> ・若年層において朝食の欠食率がやや高い(他健保平均は下回っている) ・20～24歳の本人女性で「就寝前夕食をとることが週3回以上ある人」の割合が、他健保平均と比較しやや高い。 <ul style="list-style-type: none"> <メンタル> ・本人の20代と50代において「統合失調症・妄想障害」「感情障害(うつ病、双極性障害など)」「神経症・ストレス障害」の罹患数が増加傾向。 ・家族の10代・50代において「感情障害(うつ病、双極性障害など)」「神経症・ストレス障害」の罹患数が増加傾向。 ・保険給付(傷病手当金)において、申請者数や支払額の増加が顕著。 	
出席率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)												母体事業所の健康推進部門が事務局となって開催する会議体であるため(アウトカムは設定されていません)										
健保活動報告の回数(【実績値】1回 【目標値】令和6年度：1回 令和7年度：1回 令和8年度：1回 令和9年度：1回 令和10年度：1回 令和11年度：1回)																						

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度
アウトプット指標												アウトカム指標								
1,2	既存		健康食推進会議への参画	母体企業	男女	18～(上限なし)	被保険者	2	エ,キ	・1回/月(1時間)目安に会議開催	ア,イ	・母体事業所の人事が中心となり、労組、食堂業者、健康推進部門、健保の5者で実施	・会議体に出席し健保の立場からアドバイス ・減塩食の推奨	・会議体に出席し健保の立場からアドバイス ・減塩食の推奨	・会議体に出席し健保の立場からアドバイス ・減塩食の推奨	・会議体に出席し健保の立場からアドバイス ・減塩食の推奨	・会議体に出席し健保の立場からアドバイス ・減塩食の推奨	・会議体に出席し健保の立場からアドバイス ・減塩食の推奨	・母体事業所の従業員が健康で生き生きと働ける職場環境づくりの一環として取組みに参画	<生活習慣：食事> ・若年層において朝食の欠食率がやや高い (他健保平均は下回っている) ・20～24歳の本人女性で「就寝前夕食をとることが週3回以上ある人」の割合が、他健保平均と比較しやや高い。 <生活習慣病リスク：肥満> ・腹囲 BMIともに、本人の30歳以降において基準値以上該当者割合が他健保平均を上回っている (将来の特定保健指導対象者予備群) ・女性の30～34歳 54～59歳の腹囲、30～34歳 40～44歳 50～54歳のBMIの基準値以上該当者割合が他健保平均を上回っている <生活習慣病リスク：高血圧> ・生活習慣病関連疾患の罹患率割合トップは高血圧症で、特に40歳以降急増 (加入者全体の10%が罹患) ・全ての年齢層で、要医療値の該当者割合が他健保平均を上回っている。
出席率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)												母体事業所の人事部主催の会議体のため(アウトカムは設定されていません)								

加入者への意識づけ

保健指導宣伝	2,5	既存	機関誌の発行	全て	男女	18～74	被保険者	1	エ,ス	・年4回発行(被保険者の自宅へ送付)	シ	・歯法研中部へ作成を依頼	16,230	-	-	-	-	-	・健康保険制度の周知 ・保健事業の紹介と募案内、ヘルスリテラシーの促進を訴求	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)	
配付率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)												加入者への健康情報の発信・共有を目的とした事業のため定量的評価が困難(アウトカムは設定されていません)									
	2,5	既存	小冊子(健康一般)配布	全て	男女	18～74	被保険者	1	エ,ス	・年1回発行(機関誌に同封し配付)	エ,ク,シ	・ゴム工業健康保険組合協議会 中部部会にて発行する冊子(自健保を含む3健保での共同作成・発行)	2,450	-	-	-	-	-	・健康保険制度や健康づくりに関するテーマについて、イラストを使いながら判りやすく伝える(全16頁建) ・同業種の健保間での健康づくり方策等の情報共有化	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)	
配付率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)												加入者への健康情報の発信を目的とした事業のため定量的評価が困難(アウトカムは設定されていません)									
	2,3,4,5,7	既存	新入社員教育(小冊子「社会保険の知識」を活用)	全て	男女	18～24	被保険者,基準該当者	1	エ,キ,サ,ス	・年1回(4月)学卒者向けに実施 ・健康保険の一般的知識や保健事業をオリジナル資料を使い説明	ア,シ	・母体：「新入社員教育」の機会を活用 ・母体以外：母体「新入社員教育」で使用したテキスト一式を提供し各社担当者から説明	96	-	-	-	-	-	・新入社員(学卒)に健康保険制度の仕組みや保健事業の紹介を通じ、健康保険組合の取組みを理解いただく ・教育時期にあわせ歯科健診を実施し、要治療者を早期受診へ導く	<歯> ・疾病別の医療費・受診率ともに「歯科」がワースト1で年々増加。(性別・続柄別いずれもトップ) ・本人の全年齢層(特に40歳未満)と、家族の30歳未満において歯の健康状態が不明の方が半数以上いる。	
配付率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)												新入社員歯科健診の受診率(【実績値】 - 【目標値】令和6年度：50% 令和7年度：60% 令和8年度：70% 令和9年度：70% 令和10年度：70% 令和11年度：70%)母体事業所の育成セと協働で受診促進									
歯科健診受診促進活動実施率(【実績値】 - 【目標値】令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)母体事業所の育成セ、井之口歯科室と協働で実施																					
	2,7	新規	ジェネリック医薬品の使用促進	全て	男女	0～74	基準該当者	1	エ,キ,ケ,ス	・対象者に年2回差額通知を送付し切替を依頼(精神疾患および新生物を除く)	シ	・大和総研ビジネス・イノベーションの基幹システムを使い、差額通知の発行、効果検証を実施	-	-	-	-	-	-	・ジェネリック使用率：85%以上	<調剤> ・調剤費が年々増加(参考：2022年度 後発医薬品使用割合_83.2%で国の目標値は上回っている)	
対象者への案内送付率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)年2回(9.3月)500円以上/月												対象者の切替率(【実績値】 - 【目標値】令和6年度：30% 令和7年度：30% 令和8年度：30% 令和9年度：30% 令和10年度：30% 令和11年度：30%)・22年度切替率：22.6% (全体37人/164人 うち花粉症 23人/92人、高血圧 14人/72人)									

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度
アウトプット指標												アウトカム指標								
												ジェネリック利用率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：85%以上 令和7年度：85%以上 令和8年度：85%以上 令和9年度：85%以上 令和10年度：85%以上 令和11年度：85%以上)・22年度切替率：83.2% (大和端末から3月 (なければ2月)を確認)								
その他	2	既存	ホームページの運営	全て	男女	18～74	加入者全員	1	エ,ケ,ス	・必要な情報をタイムリーに提供 (随時更新)	シ	・脳法研中部へ全体の保守管理を委託	・定期メンテナンス (年1回) ・掲載記事のアッププ デート (随時) ・「健康支援サイト」のリリースと健康データの掲載 ・新たな広報手段の検討	・定期メンテナンス (年1回) ・掲載記事のアッププ デート (随時) ・「健康支援サイト」への健康データ掲載 ・新たな広報手段の導入	・定期メンテナンス (年1回) ・掲載記事のアッププ デート (随時) ・「健康支援サイト」への健康データ掲載	・定期メンテナンス (年1回) ・掲載記事のアッププ デート (随時) ・「健康支援サイト」への健康データ掲載	・定期メンテナンス (年1回) ・掲載記事のアッププ デート (随時) ・「健康支援サイト」への健康データ掲載	・定期メンテナンス (年1回) ・掲載記事のアッププ デート (随時) ・「健康支援サイト」への健康データ掲載	・健康保険制度の紹介、適用・給付手続きの案内、健保申請書類のダウンロード、保健事業の案内など、広域且つ公平な広報媒体として活用 ・「健康支援サイト」のリリースと活用促進により、各事業所の健康経営の取り組みを後押し	該当なし (これまでの経緯等で実施する事業)
メンテナンス回数(【実績値】12回 【目標値】令和6年度：12回 令和7年度：12回 令和8年度：12回 令和9年度：12回 令和10年度：12回 令和11年度：12回)・健康保険や健康づくり情報などタイムリーな提供の場とし、計画的にアップデートを行う (頻度：月1回)												加入者への健康情報の発信を目的とした事業のため定量的評価が困難 (アウトカムは設定されていません)								
機関誌でのホームページ活用案内(【実績値】4回 【目標値】令和6年度：4回 令和7年度：4回 令和8年度：4回 令和9年度：4回 令和10年度：4回 令和11年度：4回)-																				
2,5,7	既存	健康情報ポータルサイトの提供 (ヘルシーファミリー倶楽部)	全て	男女	0～(上限なし)	加入者全員	1	エ	・自健保のホームページに「ヘルシーファミリー倶楽部」へのリンク先を掲載	シ	・脳法研中部へ全体の保守管理を委託	・掲載記事のアッププ デート (毎月) ・機関誌等での案内 (年1回)	・掲載記事のアッププ デート (毎月) ・機関誌等での案内 (年1回)	・掲載記事のアッププ デート (毎月) ・機関誌等での案内 (年1回)	・掲載記事のアッププ デート (毎月) ・機関誌等での案内 (年1回)	・掲載記事のアッププ デート (毎月) ・機関誌等での案内 (年1回)	・掲載記事のアッププ デート (毎月) ・機関誌等での案内 (年1回)	・掲載記事のアッププ デート (毎月) ・機関誌等での案内 (年1回)	・健康増進に役立つ様々なコンテンツを提供し、加入者のヘルスリテラシー向上を図る	<生活習慣病リスク：肥満> ・腹囲 BMIともに、本人の30歳以降において基準値以上該当者が他健保平均を上回っている (将来の特定保健指導対象者予備群) ・女性の30～34歳 54～59歳の腹囲、30～34歳 40～44歳 50～54歳の BMI の基準値以上該当者が他健保平均を上回っている <生活習慣病リスク：糖尿病> ・生活習慣病関連疾患の医療費トップは糖尿病で、罹患率も増加傾向。特に40歳以降で罹患率が急増 (対2018年度：医療費 27百万円増 [130%]) (対2018年度：罹患率 132人増 [111%]) ・HbA1cにおいて、全ての年齢層で、要医療値の該当者が他健保平均を上回っている <生活習慣病リスク：高血圧> ・生活習慣病関連疾患の罹患率割合トップは高血圧症で、特に40歳以降急増 (加入者全体の10%が罹患) ・全ての年齢層で、要医療値の該当者が他健保平均を上回っている。 <生活習慣病リスク：脂質> ・生活習慣病関連疾患の罹患率割合トップは脂質異常症で、特に40歳以降急増 (加入者全体の10%が罹患) ・中性脂肪は、全ての年齢層で、要医療値の該当者が他健保平均を上回っている <生活習慣：運動> ・「歩行または同等の身体活動を1時間/日以上」実施していない人の割合が、女性の全年齢層で他健保平均を上回っている <生活習慣：食事> ・若年層において朝食の欠食率がやや高い (他健保平均は下回っている) ・20～24歳の本人女性で「就寝前夕食をとることが週3回以上ある人」の割合が、他健保平均と比較しやや高い。 <重症化予防 (新生物) > ・「乳がん」の医療費・罹患率数が、本人・家族ともに増加傾向。(対2018：16人増) ・「消化器系 (胃がん・大腸がんなど)」の罹患率数は減少傾向にあるが、新生物全体の罹患率数に占める割合は高い。 ・ドック受診料無料の節目年齢で

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画						
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
アウトプット指標												アウトカム指標							
																		<p>も受診率は7割以下 (本人 68.4% 家族 59.3%) ・継続加入者 (7,160人) の過去5年間の受診状況を見ると、無関心層 (0~1回) の割合は本人が高い (本人 51.1% 家族 40.5%) ・新生物の罹患率が上がる50歳以上の受診率は、本人・家族ともに54.9%。 ・本人の消化器系 (大腸+胃) における2次検査該当者割合が全体の7割を占める。(家族は5割) ・本人・家族ともに、大腸がん検査の2次検査未受診率がワースト1。</p> <p><歯> ・疾病別の医療費・受診率ともに「歯科」がワースト1で年々増加。(性別・続柄別いずれもトップ) ・本人の全年齢層 (特に40歳未満) と、家族の30歳未満において歯の健康状態が不明の方が半数以上いる。</p> <p><調剤> ・調剤費が年々増加 (参考: 2022年度 後発医薬品使用割合_83.2%で国の目標値は上回っている)</p>	
加入者への案内(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度: 1回 令和7年度: 1回 令和8年度: 1回 令和9年度: 1回 令和10年度: 1回 令和11年度: 1回)機関誌等での案内												加入者の健康情報の発信を目的とした事業のため定量的評価が困難(アウトカムは設定されていません)							
2,4,5,7	既存	健康情報提供ツールの設置(マイページ)	全て	男女	0~74	加入者全員	1	エ,ク,ケ,ス	必要な情報をタイムリーに提供(随時更新)	シ	・辦法研中部へ全体の保守管理を委託	・保健事業の申込み受付(人間ドック、郵送健診等) ・健診結果の閲覧 ・ジェネリック差額通知 ・医療費通知	・保健事業の申込み受付(人間ドック、郵送健診等) ・健診結果の閲覧 ・ジェネリック差額通知 ・医療費通知	・保健事業の申込み受付(人間ドック、郵送健診等) ・健診結果の閲覧 ・ジェネリック差額通知 ・医療費通知	・保健事業の申込み受付(人間ドック、郵送健診等) ・健診結果の閲覧 ・ジェネリック差額通知 ・医療費通知	・保健事業の申込み受付(人間ドック、郵送健診等) ・健診結果の閲覧 ・ジェネリック差額通知 ・医療費通知	・保健事業の申込み受付(人間ドック、郵送健診等) ・健診結果の閲覧 ・ジェネリック差額通知 ・医療費通知	・健康の見える化(保健事業の参加記録、健診結果のグラフ化)	<p><重症化予防(新生物)> ・「乳がん」の医療費・罹患患者数が、本人・家族ともに増加傾向。(対2018: 16人増) ・「消化器系(胃がん・大腸がんなど)」の罹患患者数は減少傾向にあるが、新生物全体の罹患患者数に占める割合は高い。 ・ドック受診料無料の節目年齢でも受診率は7割以下 (本人 68.4% 家族 59.3%) ・継続加入者 (7,160人) の過去5年間の受診状況を見ると、無関心層 (0~1回) の割合は本人が高い (本人 51.1% 家族 40.5%) ・新生物の罹患率が上がる50歳以上の受診率は、本人・家族ともに54.9%。 ・本人の消化器系 (大腸+胃) における2次検査該当者割合が全体の7割を占める。(家族は5割) ・本人・家族ともに、大腸がん検査の2次検査未受診率がワースト1。</p>
加入者への案内(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度: 3回 令和7年度: 3回 令和8年度: 3回 令和9年度: 3回 令和10年度: 3回 令和11年度: 3回)-												マイページ登録率(【実績値】 51% 【目標値】 令和6年度: 60% 令和7年度: 60% 令和8年度: 70% 令和9年度: 70% 令和10年度: 70% 令和11年度: 70%)集計対象: 18歳以上							
																		<p><特定保健指導> ・対象者の9割以上が本人 ・2021年と2022年度を比較すると、積極的支援 動機付き支援ともに対象者数は減少しているが(流入者数<脱出者数) 対象者割合は他健保平均をやや上回っている(当健保 21.9% 他健保平均_21.0%) ・積極的の72.7%、動機付けの63.7%が2年連続指導対象者である(リピーターが多い)</p> <p><生活習慣病リスク: 肥満> ・腹囲 BMIともに、本人の30歳以降において基準値以上該当者割合が他健保平均を上回っている(将来の特定保健指導対象者予備群) ・女性の30~34歳 54~59歳の腹囲、30~34歳 40~44歳 50~54歳のBMIの基準値以上該当者割合が</p>	

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度
				アウトプット指標									アウトカム指標							
予算措置なし	2,4,5	新規	節目年齢者への健康教育（キャリアデザイン研修）	母体企業	男女	30～55	被保険者	2	ウ,エ,ク,ケ,サ,ス	・節目年齢者（母体事業所の従業員）に対し、それぞれのステージに合った健康の重要性に関する講義を実施	ア	・母体人事部と共同実施	・節目年齢者への講義実施	・節目年齢者への講義実施	・節目年齢者への講義実施	・節目年齢者への講義実施	・節目年齢者への講義実施	・節目年齢者への講義実施	・健康リテラシーの向上と健保の活動への理解協力	<p>他健保平均を上回っている</p> <p><生活習慣病リスク：糖尿病> ・生活習慣病関連疾患の医療費トップは糖尿病で、罹患率も増加傾向。特に40歳以降で罹患率が急増 （対2018年度：医療費 27百万円増 [130%]） （対2018年度：罹患率 132人増 [111%]） ・HbA1cにおいて、全ての年齢層で、要医療値の該当割合が他健保平均を上回っている</p> <p><生活習慣病リスク：高血圧> ・生活習慣病関連疾患の罹患率割合トップは高血圧症で、特に40歳以降急増 （加入者全体の10%が罹患） ・全ての年齢層で、要医療値の該当割合が他健保平均を上回っている。</p> <p><生活習慣病リスク：脂質> ・生活習慣病関連疾患の罹患率割合トップは脂質異常症で、特に40歳以降急増 （加入者全体の10%が罹患） ・中性脂肪は、全ての年齢層で、要医療値の該当割合が他健保平均を上回っている</p> <p><生活習慣：運動> ・「歩行または同等の身体活動を1時間/日以上」実施していない人の割合が、女性の全年齢層で他健保平均を上回っている</p> <p><生活習慣：食事> ・若年層において朝食の欠食率はやや高い （他健保平均は下回っている） ・20～24歳の本人女性で「就寝前夕食をとることが週3回以上ある人」の割合が、他健保平均と比較しやや高い。</p> <p><生活習慣：喫煙> ・男女とも30代の喫煙率が他健保平均を上回っている。 ・男性の30～54歳の喫煙率が3割以上と高い （参考：全国平均_男性 27.1%、女性 7.6%、全体 16.7%）</p> <p><重症化予防（新生物）> ・「乳がん」の医療費・罹患率が増加傾向。 （対2018：16人増） ・「消化器系（胃がん・大腸がんなど）」の罹患率数は減少傾向にあるが、新生物全体の罹患率に占める割合は高い。 ・ドック受診料無料の節目年齢でも受診率は7割以下 （本人 68.4% 家族 59.3%） ・継続加入者（7,160人）の過去5年間の受診状況を見ると、無関心層（0～1回）の割合は本人が高い（本人 51.1% 家族 40.5%） ・新生物の罹患率が上がる50歳以上の受診率は、本人・家族ともに54.9%。 ・本人の消化器系（大腸+胃）における2次検査該当割合が全体の7割を占める。（家族は5割） ・本人・家族ともに、大腸がん検査の2次検査未受診率がワースト1。</p> <p><歯> ・疾病別の医療費・受診率ともに「歯科」がワースト1で年々増加。（性別・続柄別いずれもトップ） ・本人の全年齢層（特に40歳未満</p>

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連																		
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画																								
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度																	
保健指導宣伝	2,3,4	新規	健診後の保健指導(39歳以下・服薬者)	全て	男女	18～74	基準該当者,その他	3	イ,エ,オ,キ,ク,ケ,サ	ア,イ,ウ	・母体事業所の従業員は母体健康推進部門が実施 ・母体以外事業所の従業員と家族を健保が実施	・就業時間内での保健指導実施 ・特保で除外される対象者(39歳以下・服薬者)や、コントロール不良者、重症化リスクの高い対象者を健診結果やレセプト情報を参考に選定し保健指導を実施。	・次年度スタートに向けた準備期間(実施方法、対象者基準、委託先の検討)(適用事業所への説明)	・対象者への生活習慣改善指導	・対象者への生活習慣改善指導	・対象者への生活習慣改善指導	・対象者への生活習慣改善指導	・対象者への生活習慣改善指導	・被保険者および被扶養者の生活習慣改善につながる保健指導の実施 ・リスクの高い方を早期受療へ導き重症化を防止	<生活習慣病リスク：肥満> ・腹囲BMIともに、本人の30歳以降において基準値以上該当者割合が他健保平均を上回っている(将来の特定保健指導対象者予備群) ・女性の30～34歳 54～59歳の腹囲、30～34歳 40～44歳 50～54歳のBMIの基準値以上該当者割合が他健保平均を上回っている <生活習慣病リスク：糖尿病> ・生活習慣病関連疾患の医療費トップは糖尿病で、罹患数も増加傾向。特に40歳以降で罹患者が急増(対2018年度：医療費27万円増[130%]) (対2018年度：罹患患者 132人増[111%]) ・HbA1cにおいて、全ての年齢層で、要医療値の該当者割合が他健保平均を上回っている <生活習慣病リスク：高血圧> ・生活習慣病関連疾患の罹患率割合トップは高血圧症で、特に40歳以降急増(加入者全体の10%が罹患) ・全ての年齢層で、要医療値の該当者割合が他健保平均を上回っている。 <生活習慣病リスク：脂質> ・生活習慣病関連疾患の罹患率割合トップは脂質異常症で、特に40歳以降急増(加入者全体の10%が罹患) ・中性脂肪は、全ての年齢層で、要医療値の該当者割合が他健保平均を上回っている																	
																					準備事項完遂率(【実績値】-【目標値】令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)												新規立上げとなる令和6年度は設定しない(アウトカムは設定されていません)				
																					5,8	既存	育児月刊誌の配布	全て	男女	18～74	基準該当者	1	エ,ス	シ	・育児書は、(株)赤ちゃんとママ社「Akachanと」を採用	・出生による第1子を、被扶養者とした被保険者を対象に申込書を配布(申込制)	・第1子を被扶養者とした被保険者宛に申込書を送付(都度) ・希望者の自宅へ冊子を送付(月1回)	・第1子を被扶養者とした被保険者宛に申込書を送付(都度) ・希望者の自宅へ冊子を送付(月1回)	・第1子を被扶養者とした被保険者宛に申込書を送付(都度) ・希望者の自宅へ冊子を送付(月1回)	・第1子を被扶養者とした被保険者宛に申込書を送付(都度) ・希望者の自宅へ冊子を送付(月1回)	・第1子を被扶養者とした被保険者宛に申込書を送付(都度) ・希望者の自宅へ冊子を送付(月1回)
対象者への案内送付率(【実績値】100%【目標値】令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)新生児を持つ加入者への定期刊行物の配布												加入者への健康情報の発信を目的とした事業のため定量的評価が困難(アウトカムは設定されていません)																									
												215,732	-	-	-	-	-																				

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連																	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画																							
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度																
疾病予防	2,3	既存	人間ドック・レディスドックの実施	全て	男女	30～74	加入者全員	1	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,ス	ア,イ,カ,シ	<ul style="list-style-type: none"> ・受診可能機関：37施設 ・母体事業所の従業員は福利厚生制度「カフェテリアポイント（1P=10円3500P付与/人・年）」の使用が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・30歳以上の受診費用補助 ・節目年齢※の受診費用全額補助（※30・35・40・45・50・55・59・63） ・契約健診施設の拡充 ・節目年齢該当者の未受診者へのDM送付 ・節目年齢受診者へのインセンティブ（生活習慣病リスクレポート） ・巡回バス健診会場での出張歯科健診 ・ドック未受診層に対する新たながん検診の仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・受診費用の補助継続 ・未受診者への個別フォロー ・受診者インセンティブの継続 ・巡回バス健診会場での出張歯科健診 ・新たながん検診の仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・受診費用の補助継続 ・未受診者への個別フォロー ・受診者インセンティブの継続 ・巡回バス健診会場での出張歯科健診 ・新たながん検診の取り組み実施（試行） 	<ul style="list-style-type: none"> ・受診費用の補助継続 ・未受診者への個別フォロー ・受診者インセンティブの継続 ・巡回バス健診会場での出張歯科健診 ・新たながん検診の取り組み実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・受診費用の補助継続 ・未受診者への個別フォロー ・受診者インセンティブの継続 ・巡回バス健診会場での出張歯科健診 ・新たながん検診の取り組み実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・受診費用の補助継続 ・未受診者への個別フォロー ・受診者インセンティブの継続 ・巡回バス健診会場での出張歯科健診 ・新たながん検診の取り組み実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・加入者の健康状態の把握 ・5大がんを早期発見し治療につなげる 	<p><特定健康診査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度の実受診率は87.5%で、国の目標値90%は未達 ・国の目標値達成には、家族の実受診率70%が必要（2022年度：63.3%） ・家族の全年齢層が受診率70%に未達（特に40～44歳の半数が未受診） ・家族の25～39歳（配偶者90%）と65歳以上（配偶者48% 父母52%）に新規加入者の割合が高い <p><重症化予防（新生物）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「乳がん」の医療費・罹患患者数が、本人・家族ともに増加傾向。（対2018：16人増） ・「消化器系（胃がん・大腸がんなど）」の罹患患者数は減少傾向にあるが、新生物全体の罹患患者数に占める割合は高い。 ・ドック受診無料の節目年齢でも受診率は7割以下（本人68.4% 家族59.3%） ・継続加入者（7,160人）の過去5年間の受診状況を見ると、無関心層（0～1回）の割合は本人が高い（本人51.1% 家族40.5%） ・新生物の罹患率が上がる50歳以上の受診率は、本人・家族ともに54.9%。 ・本人の消化器系（大腸+胃）における2次検査該当者割合が全体の7割を占める。（家族は5割） ・本人・家族ともに、大腸がん検査の2次検査未受診率がワースト1。 <p><歯></p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病別の医療費・受診率ともに「歯科」がワースト1で年々増加。（性別・続柄別いずれもトップ） ・本人の全年齢層（特に40歳未満）と、家族の30歳未満において歯の健康状態が不明の方が半数以上いる。 																	
																				募集活動の実施率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)											節目年齢者の受診率(【実績値】 - 【目標値】令和6年度：65%以上 令和7年度：68%以上 令和8年度：70%以上 令和9年度：70%以上 令和10年度：70%以上 令和11年度：70%以上)					・2022年度実績：受診率64.1%
																				節目年齢未申込者のフォロー実施率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)											5大がんの検診受診率(【実績値】 - 【目標値】令和6年度：45%以上 令和7年度：48%以上 令和8年度：50%以上 令和9年度：60%以上 令和10年度：60%以上 令和11年度：60%以上)					・5大がんの検診受診率=ドック全体の受診率 ・2022年度実績：受診率44.1%
																															9,430					

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)						事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度		
アウトプット指標												アウトカム指標								
3	既存	遠隔地巡回人間ドック	一部の事業所	男女	30～74	加入者全員	1	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ケ,コ,ク,ケ,サ,ス	・近隣に健保契約健診施設が無い遠隔地事業所の加入者に対し巡回バス健診(がん検査含む)を実施 ・各事業所単位で申込書を配付 ・家族の受診も可 ・同日に歯科健診実施	ア,ウ,シ	・健診は外部業者へ委託(近畿健康管理センター) ・歯科健診は井之口歯科診療所へ委託	・事業所の定期健康診断月に合わせ実施 ・30歳以上の受診費用補助 ・節目年齢※の受診費用全額補助 (※30・35・40・45・50・55・59・63) ・節目年齢受診者へのインセンティブ(生活習慣病リスクレポート) ・歯科健診の実施	・事業所の定期健康診断月に合わせ実施 ・30歳以上の受診費用補助 ・節目年齢※の受診費用全額補助 (※30・35・40・45・50・55・59・63) ・節目年齢受診者へのインセンティブ(生活習慣病リスクレポート) ・歯科健診の実施	・事業所の定期健康診断月に合わせ実施 ・30歳以上の受診費用補助 ・節目年齢※の受診費用全額補助 (※30・35・40・45・50・55・59・63) ・節目年齢受診者へのインセンティブ(生活習慣病リスクレポート) ・歯科健診の実施	・事業所の定期健康診断月に合わせ実施 ・30歳以上の受診費用補助 ・節目年齢※の受診費用全額補助 (※30・35・40・45・50・55・59・63) ・節目年齢受診者へのインセンティブ(生活習慣病リスクレポート) ・歯科健診の実施	・事業所の定期健康診断月に合わせ実施 ・30歳以上の受診費用補助 ・節目年齢※の受診費用全額補助 (※30・35・40・45・50・55・59・63) ・節目年齢受診者へのインセンティブ(生活習慣病リスクレポート) ・歯科健診の実施	・事業所の定期健康診断月に合わせ実施 ・30歳以上の受診費用補助 ・節目年齢※の受診費用全額補助 (※30・35・40・45・50・55・59・63) ・節目年齢受診者へのインセンティブ(生活習慣病リスクレポート) ・歯科健診の実施	・事業所の定期健康診断月に合わせ実施 ・30歳以上の受診費用補助 ・節目年齢※の受診費用全額補助 (※30・35・40・45・50・55・59・63) ・節目年齢受診者へのインセンティブ(生活習慣病リスクレポート) ・歯科健診の実施	・加入者の健康状態の把握 ・5大がんを早期発見し治療につなげる	<p><特定健康診査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度の受診率は87.5%で、国の目標値90%は未達 ・国の目標値達成には、家族の受診率70%が必要(2022年度：63.3%) ・家族の全年齢層が受診率70%に未達(特に40～44歳の半数が未受診) ・家族の25～39歳(配偶者90%)と65歳以上(配偶者48% 父母52%)に新規加入者の割合が高い <p><重症化予防(新生物)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「乳がん」の医療費・罹患者数が、本人・家族ともに増加傾向。(対2018：16人増) ・「消化器系(胃がん・大腸がんなど)」の罹患患者数は減少傾向にあるが、新生物全体の罹患率に占める割合は高い。 ・ドック受診料無料の節目年齢でも受診率は7割以下(本人68.4% 家族59.3%) ・継続加入者(7,160人)の過去5年間の受診状況を見ると、無関心層(0～1回)の割合は本人が高い(本人51.1% 家族40.5%) ・新生物の罹患率が上がる50歳以上の受診率は、本人・家族ともに54.9%。 ・本人の消化器系(大腸+胃)における2次検査該当者割合が全体の7割を占める。(家族は5割) ・本人・家族ともに、大腸がん検査の2次検査未受診率がワースト1。 <p><歯></p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病別の医療費・受診率ともに「歯科」がワースト1で年々増加。(性別・続柄別いずれもトップ) ・本人の全年齢層(特に40歳未満)と、家族の30歳未満において歯の健康状態が不明の方が半数以上いる。
募集活動の実施率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)												受診率(40歳以上)(【実績値】- 【目標値】令和6年度：38% 令和7年度：40% 令和8年度：45% 令和9年度：50% 令和10年度：50% 令和11年度：50%)						・2022年度実績：受診率35%(221人/630人)		
2,3,4	既存	脳ドック費用補助	全て	男女	0～74	加入者全員	1	イ,エ,ケ,コ	・受診費用を受診者が負担した後、一部を健保に請求(償還払い)	シ	・各自が希望する施設に受診手配(通年) ・母体事業所の従業員は福利厚生制度「カフェテリアポイント(1P=10円3500P付与/人・年)」の使用が可能。	・受診費用の補助(通年) ・「要精検」「要治療」判定者への2次検査の受診勧奨および受診状況把握の仕組みづくり ・補助対象年齢の見直し	・受診費用の補助(通年) ・「要精検」「要治療」判定者への2次検査の受診勧奨および受診状況の把握	・受診費用の補助(通年) ・「要精検」「要治療」判定者への2次検査の受診勧奨および受診状況の把握	・受診費用の補助(通年) ・「要精検」「要治療」判定者への2次検査の受診勧奨および受診状況の把握	・受診費用の補助(通年) ・「要精検」「要治療」判定者への2次検査の受診勧奨および受診状況の把握	・受診費用の補助(通年) ・「要精検」「要治療」判定者への2次検査の受診勧奨および受診状況の把握	・脳疾患の早期発見	<p><生活習慣病リスク：高血圧></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病関連疾患の罹患率割合トップは高血圧症で、特に40歳以降急増(加入者全体の10%が罹患) ・全ての年齢層で、要医療値の該当者割合が他健保平均を上回っている。 	
事業案内(年間)(【実績値】2回 【目標値】令和6年度：2回 令和7年度：2回 令和8年度：2回 令和9年度：2回 令和10年度：2回 令和11年度：2回)												要精検・要治療判定者の2次検査受診率(【実績値】- 【目標値】令和6年度：60% 令和7年度：60% 令和8年度：60% 令和9年度：60% 令和10年度：60% 令和11年度：60%)						「要精検」「要治療」判定者における医療機関受診者数/脳ドックで「要精検」「要医療」判定者数		
2,3,4	既存	歯科予防対策	全て	男女	0～74	加入者全員	1	イ,ウ,エ,オ,キ,ケ,コ,ク,ケ,サ	・歯科健診のメニューは全部で4種類。(A～D健診) ・愛知、岐阜、三重、静岡在住者(加入者の約7割が在住)は愛知県歯科医師会の健診プログラムを活用。 ・その他地域の在住者は受診費用を償還払いにて対応。 ・学童期(0～15歳)は、学校等での歯科健診受診機会があることから、対象者を16歳以上に限定 ・事業主と連携した受診促進施策の実施。	ア,ウ,シ	・会社内の歯科室(井之口歯科室)の活用 ※就業時間内の受診可 ・愛知県歯科医師会や、かかりつけの歯科医院活用 ・出張歯科検診が実施可能な外部委託先の活用	・事業の周知活動 ・健診後の要精検、要治療者への受診勧奨 ・歯科保健指導の実施 ・定期健康診断時の歯科健診補助(D健診) ・受診勧奨対象者の抽出と受診フォロー	・事業の周知活動 ・健診後の要精検、要治療者への受診勧奨 ・歯科保健指導の実施 ・定期健康診断時の歯科健診補助(D健診) ・受診勧奨対象者の抽出と受診フォロー	・事業の周知活動 ・健診後の要精検、要治療者への受診勧奨 ・歯科保健指導の実施 ・定期健康診断時の歯科健診補助(D健診) ・受診勧奨対象者の抽出と受診フォロー	・事業の周知活動 ・健診後の要精検、要治療者への受診勧奨 ・歯科保健指導の実施 ・定期健康診断時の歯科健診補助(D健診) ・受診勧奨対象者の抽出と受診フォロー	・事業の周知活動 ・健診後の要精検、要治療者への受診勧奨 ・歯科保健指導の実施 ・定期健康診断時の歯科健診補助(D健診) ・受診勧奨対象者の抽出と受診フォロー	・事業の周知活動 ・健診後の要精検、要治療者への受診勧奨 ・歯科保健指導の実施 ・定期健康診断時の歯科健診補助(D健診) ・受診勧奨対象者の抽出と受診フォロー	・事業の周知活動 ・健診後の要精検、要治療者への受診勧奨 ・歯科保健指導の実施 ・定期健康診断時の歯科健診補助(D健診) ・受診勧奨対象者の抽出と受診フォロー	・愛知県歯科医師会の歯科健診プログラムを活用し、歯科疾病の予防と定期的な歯科健診受診の意識定着を図る。	<p><歯></p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病別の医療費・受診率ともに「歯科」がワースト1で年々増加。(性別・続柄別いずれもトップ) ・本人の全年齢層(特に40歳未満)と、家族の30歳未満において歯の健康状態が不明の方が半数以上いる。
歯科健診制度の案内実施回数(【実績値】2回 【目標値】令和6年度：2回 令和7年度：2回 令和8年度：2回 令和9年度：2回 令和10年度：2回 令和11年度：2回)												受診勧奨対象者の歯科医院受診率(【実績値】- 【目標値】令和6年度：80% 令和7年度：80% 令和8年度：80% 令和9年度：80% 令和10年度：80% 令和11年度：80%)						-		

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連				
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画										
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度			
アウトプット指標												アウトカム指標											
歯科未受診へのDM送付率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)歯科健診 歯科医院未受診者のフォロー												定期的に歯科健診等を受診している人の割合(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：55%以上 令和7年度：58%以上 令和8年度：60%以上 令和9年度：63%以上 令和10年度：65%以上 令和11年度：70%以上)歯科医院通院者を含む					2022年度実績：51%						
要精検・要治療者への受診勧奨実施率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)-																							
2,3	既存	郵送検診	全て	男女	18～74	加入者全員	1	イ,ウ,エ,ク	・年1回機関誌に申込書を同封し配付	シ	・事業案内：健康保険組合 ・検査委託先：メスブ細胞検査研究所 ・母体事業所の従業員は福利厚生制度「カフェテリアポイント(1P=10円3500P付与/人・年)」の使用が可能。	・年1回(11月)実施(機関誌に申込書を同封)	・年1回(11月)実施(機関誌に申込書を同封)	・年1回(11月)実施(機関誌に申込書を同封)	・年1回(11月)実施(機関誌に申込書を同封)	・年1回(11月)実施(機関誌に申込書を同封)	・年1回(11月)実施(機関誌に申込書を同封)	・人間ドック等を利用する上で、時間や場所に制約がある加入者に対し、がん等の健康リスク発見のツールとして活用。 ・特に5がんの啓発を目的とし、特別斡旋を実施。	<重症化予防(新生物)> ・「乳がん」の医療費・罹患者数が、本人・家族ともに増加傾向。(対2018：16人増) ・「消化器系(胃がん・大腸がんなど)」の罹患者数は減少傾向にあるが、新生物全体の罹患者数に占める割合は高い。 ・ドック受診料無料の節目年齢でも受診率は7割以下(本人68.4% 家族59.3%) ・継続加入者(7,160人)の過去5年間の受診状況を見ると、無関心層(0～1回)の割合は本人が高い(本人51.1% 家族40.5%) ・新生物の罹患者率が上がる50歳以上の受診率は、本人・家族ともに54.9%。 ・本人の消化器系(大腸+胃)における2次検査該当者割合が全体の7割を占める。(家族は5割) ・本人・家族ともに、大腸がん検査の2次検査未受診率がワースト1。 <歯> ・疾病別の医療費・受診率ともに「歯科」がワースト1で年々増加。(性別・続柄別いずれもトップ) ・本人の全年齢層(特に40歳未満)と、家族の30歳未満において歯の健康状態が不明の方が半数以上いる。				
被保険者への案内実施率(【実績値】100%【目標値】 令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)海外外向者及び帯同家族は検体送付ができないことから対象外												人間ドック未受診者の利用率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：5% 令和7年度：7% 令和8年度：9% 令和9年度：10% 令和10年度：10% 令和11年度：10%)2022年度実績：3.6%(郵送検診申込者かつ人間ドック未受診者228人/人間ドック未受診者全体6,387人=3.57%)											
2,3,4	既存	2次検査受診促進活動	全て	男女	20～74	基準該当者	1	イ,ウ,エ,オ,キ,ケ,ス	・人間ドックの結果「要精密検査」「要治療」判定で、当健保独自の判断基準に沿って受診勧奨 ・健康相談窓口(健保保健師が対応)の設置	ア,イ,シ	・受診勧奨(1回目)：健診機関(各健診機関発行の結果表に健保案内を同封) ・受診勧奨(2回目)：健保(受診状況確認書を送付) ・受診勧奨(3回目)：健保(未受診者に対し電話または面談にて受診勧奨)	・受診状況確認書の送付対象を「がん」に限定しフォロー ・がん検診の2次検査受診状況の確認 ・未受診者への個別フォロー	・がん検診の2次検査受診状況の確認 ・未受診者への個別フォロー	・がん検診の2次検査受診状況の確認 ・未受診者への個別フォロー	・がん検診の2次検査受診状況の確認 ・未受診者への個別フォロー	・がん検診の2次検査受診状況の確認 ・未受診者への個別フォロー	・がん検診の2次検査受診状況の確認 ・未受診者への個別フォロー	・重症化予防(特に5大がん)	<重症化予防(新生物)> ・「乳がん」の医療費・罹患者数が、本人・家族ともに増加傾向。(対2018：16人増) ・「消化器系(胃がん・大腸がんなど)」の罹患者数は減少傾向にあるが、新生物全体の罹患者数に占める割合は高い。 ・ドック受診料無料の節目年齢でも受診率は7割以下(本人68.4% 家族59.3%) ・継続加入者(7,160人)の過去5年間の受診状況を見ると、無関心層(0～1回)の割合は本人が高い(本人51.1% 家族40.5%) ・新生物の罹患者率が上がる50歳以上の受診率は、本人・家族ともに54.9%。 ・本人の消化器系(大腸+胃)における2次検査該当者割合が全体の7割を占める。(家族は5割) ・本人・家族ともに、大腸がん検査の2次検査未受診率がワースト1。				
2次検査フォロー対象者への受診確認書送付率(【実績値】100%【目標値】 令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)-												5大がんの2次検査受診率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：70%以上 令和7年度：70%以上 令和8年度：70%以上 令和9年度：70%以上 令和10年度：70%以上 令和11年度：70%以上)2022年度実績：受診率68.7%											
												2,600											

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度
アウトプット指標												アウトカム指標								
4	既存	生活習慣病等重症化予防事業(糖尿病重症化予防)	全て	男女	20～74	基準該当者	1	イ,ウ,キ,ク,ケ	・委託先(SOMPOヘルスサポート)の「糖尿病性腎症等重症化予防プログラム」を採用	ウ,カ	・対象者の選定:健保 ・保健指導/受診勧奨:委託先(SOMPOヘルスサポート)	・委託時期:3ヵ月ごと(5・8・11・2月) ・高血圧対象者を含めた支援方法の検討	・委託時期:3ヵ月ごと(5・8・11・2月)	・委託時期:3ヵ月ごと(5・8・11・2月)	・委託時期:3ヵ月ごと(5・8・11・2月)	・委託時期:3ヵ月ごと(5・8・11・2月)	・委託時期:3ヵ月ごと(5・8・11・2月)	・将来の重大疾病(人工透析等)発症を防ぐため、「糖尿病性腎症」のリスク保持者(未治療/治療中断者)に対し、病気の理解活動と受診勧奨の体制整備	<生活習慣病リスク:糖尿病> ・生活習慣病関連疾患の医療費トップは糖尿病で、罹患者数も増加傾向。特に40歳以降で罹患者が急増 (対2018年度:医療費27百万円増[130%]) (対2018年度:罹患者132人増[111%]) ・HbA1cにおいて、全ての年齢層で、要医療値の該当者割合が他健保平均を上回っている	
対象者への案内送付率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度:100% 令和7年度:100% 令和8年度:100% 令和9年度:100% 令和10年度:100% 令和11年度:100%)												プログラム参加率(【実績値】 - 【目標値】令和6年度:70% 令和7年度:70% 令和8年度:70% 令和9年度:70% 令和10年度:70% 令和11年度:70%)					2022年度実績:68%(15人/22人)			
初回支援実施率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度:100% 令和7年度:100% 令和8年度:100% 令和9年度:100% 令和10年度:100% 令和11年度:100%)												SOMPO→対象者へ架電					改善率(【実績値】 - 【目標値】令和6年度:50% 令和7年度:50% 令和8年度:50% 令和9年度:50% 令和10年度:50% 令和11年度:50%)		プログラム参加前後で、健診結果や医療機関受診状況(未受診→治療中・投薬中)が改善した方の割合	
2,5	既存	家庭常備薬及び歯科用品の斡旋	全て	男女	18～74	被保険者	1	エ,ス	・被保険者へ案内を配布(機関誌に同封)	ア,シ	・委託先:白石薬品 ・母体事業所の従業員は福利厚生制度「カフェテリアポイント(1P=10円3500P付与/人・年)」の使用が可能。	・年2回(4・11月)実施 ・OTC医薬品※の利用促進 ※処方箋無しで購入できる医薬品	・年2回(4・11月)実施 ・OTC医薬品※の利用促進 ※処方箋無しで購入できる医薬品	・年2回(4・11月)実施 ・OTC医薬品※の利用促進 ※処方箋無しで購入できる医薬品	・年2回(4・11月)実施 ・OTC医薬品※の利用促進 ※処方箋無しで購入できる医薬品	・年2回(4・11月)実施 ・OTC医薬品※の利用促進 ※処方箋無しで購入できる医薬品	・年2回(4・11月)実施 ・OTC医薬品※の利用促進 ※処方箋無しで購入できる医薬品	・日常の軽い健康不調の改善や健康維持管理に備え、家庭常備薬、健康器具、衛生用品の斡旋。 ・セルフメディケーションの推進(自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てする)	<調剤> ・調剤費が年々増加 (参考:2022年度後発医薬品使用割合_83.2%で国の目標値は上回っている)	
案内送付率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度:100% 令和7年度:100% 令和8年度:100% 令和9年度:100% 令和10年度:100% 令和11年度:100%)												利用率(【実績値】8.7% 【目標値】令和6年度:10% 令和7年度:12% 令和8年度:15% 令和9年度:15% 令和10年度:15% 令和11年度:15%)					2022年度実績:9.0%(実人数898人/機関誌配布対象者10,000人)			
2,8	既存	インフルエンザ予防接種費用補助	全て	男女	1～15	被扶養者	1	エ,ク,ケ,ス	・対象者がいる世帯へ案内一式を送付(愛知県内用の受診券および愛知県外受診用の補助金請求書)	キ,シ	・健保連愛知連合会の「インフルエンザワクチン接種補助事業」に参画(共同事業)	・年1回2,000円を上限/人を補助 ・10~1月接種分(インフルエンザ流行期)	・年1回2,000円を上限/人を補助 ・10~1月接種分(インフルエンザ流行期)	・年1回2,000円を上限/人を補助 ・10~1月接種分(インフルエンザ流行期)	・年1回2,000円を上限/人を補助 ・10~1月接種分(インフルエンザ流行期)	・年1回2,000円を上限/人を補助 ・10~1月接種分(インフルエンザ流行期)	・年1回2,000円を上限/人を補助 ・10~1月接種分(インフルエンザ流行期)	・中学生以下を対象としたインフルエンザ予防接種費用の一部を補助。 ・インフルエンザ脳症等の重篤な疾患を予防。	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)	
対象世帯への案内送付率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度:100% 令和7年度:100% 令和8年度:100% 令和9年度:100% 令和10年度:100% 令和11年度:100%)												利用率(【実績値】 - 【目標値】令和6年度:4% 令和7年度:48% 令和8年度:50% 令和9年度:50% 令和10年度:50% 令和11年度:50%)					2022年度実績:利用率39%(対象者4,674人)			
1,2,5	既存	禁煙支援	全て	男女	20～75	被保険者	3	エ,ク,ケ,サ	・加入事業所での禁煙セミナー実施 ・当健保の禁煙支援(全3コース)から喫煙者自身が希望した方法について年1回まで補助(同一年度に他コースの申込は不可)	ア,イ,サ	・禁煙セミナー:健保 ・禁煙コース(補助額/委託先):ニコチンパッチコース(13,000円/あまの創健)、モバイル禁煙コース(18,000円/ascure)、禁煙外来コース(13,000円/保険適用で禁煙治療可能な医療機関)	・禁煙成功者の事業参加費用を一部補助 ・禁煙セミナーの実施(事業所からの依頼に応じて適宜対応)	・禁煙成功者の事業参加費用を一部補助 ・禁煙セミナーの実施(事業所からの依頼に応じて適宜対応)	・禁煙成功者の事業参加費用を一部補助 ・禁煙セミナーの実施(事業所からの依頼に応じて適宜対応)	・禁煙成功者の事業参加費用を一部補助 ・禁煙セミナーの実施(事業所からの依頼に応じて適宜対応)	・禁煙成功者の事業参加費用を一部補助 ・禁煙セミナーの実施(事業所からの依頼に応じて適宜対応)	・禁煙成功者の事業参加費用を一部補助 ・禁煙セミナーの実施(事業所からの依頼に応じて適宜対応)	・喫煙者が禁煙事業を活用し、禁煙行動を開始し禁煙に成功する	<生活習慣:喫煙> ・男女とも30代の喫煙率が他健保平均を上回っている。 ・男性の30~54歳の喫煙率が3割以上と高い (参考:全国平均_男性27.1%、女性7.6%、全体16.7%)	
喫煙者への事業案内(【実績値】 - 【目標値】令和6年度:1回 令和7年度:1回 令和8年度:1回 令和9年度:1回 令和10年度:1回 令和11年度:1回)												HP、労報、機関誌、連絡書、事業所担当者連絡会などで広く案内					喫煙率(【実績値】 - 【目標値】令和6年度:20%以下 令和7年度:20%以下 令和8年度:20%以下 令和9年度:20%以下 令和10年度:20%以下 令和11年度:20%以下)		2022年度実績:23.7%	
体育奨励	2,5	既存	テマパークを歩こう!IN東山動植物園	一部の事業所	男女	0～74	加入者全員	1	ア,エ,ク,ケ,ス	シ	・他健保との共同開催	・実施月:11月 ・他健保との共同開催	・実施月:11月 ・他健保との共同開催	・実施月:11月 ・他健保との共同開催	・実施月:11月 ・他健保との共同開催	・実施月:11月 ・他健保との共同開催	・実施月:11月 ・他健保との共同開催	・家族や職場の仲間と歩く楽しさと心身のリフレッシュを実感いただく	<生活習慣:運動> ・「歩行または同等の身体活動を1時間/日以上”実施していない人“」の割合が、女性の全年齢層で他健保平均を上回っている	
	案内送付率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度:100% 令和7年度:100% 令和8年度:100% 令和9年度:100% 令和10年度:100% 令和11年度:100%)												運動習慣の重要性(必要性)の意識向上率(【実績値】 - 【目標値】令和6年度:70%以上 令和7年度:70%以上 令和8年度:70%以上 令和9年度:70%以上 令和10年度:70%以上 令和11年度:70%以上)					・参加者アンケートで、イベント前後で「メタボ改善・予防の必要性」「体力の維持向上の重要性」に関する意識に変化があったかを確認		
	2,5	既存	フィットネスルーム運営	一部の事業所	男女	18～74	加入者全員	1	エ,キ,ケ,ス	シ	・外部トレーナーへ委託	・フィットネスルームの案内(年1回) ・各種運動教室の開催	・フィットネスルームの案内(年1回) ・各種運動教室の開催	・フィットネスルームの案内(年1回) ・各種運動教室の開催	・フィットネスルームの案内(年1回) ・各種運動教室の開催	・フィットネスルームの案内(年1回) ・各種運動教室の開催	・フィットネスルームの案内(年1回) ・各種運動教室の開催	・フィットネスルームの案内(年1回) ・各種運動教室の開催	・健康増進、運動習慣化に向け、マシン等を利用して運動促進。	<生活習慣:運動> ・「歩行または同等の身体活動を1時間/日以上”実施していない人“」の割合が、女性の全年齢層で他健保平均を上回っている
案内実施率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度:100% 令和7年度:100% 令和8年度:100% 令和9年度:100% 令和10年度:100% 令和11年度:100%)												新規利用者数(対前年)(【実績値】 - 【目標値】令和6年度:20人増 令和7年度:20人増 令和8年度:20人増 令和9年度:20人増 令和10年度:20人増 令和11年度:20人増)					2022年度実績:19人増(計画値20人増) 達成率:95%			

予算科目目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連		
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画								
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度	
アウトプット指標												アウトカム指標									
	2,5	既存	けんぼれんあいちWEBウォーキング	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ア,エ,キ,ケ	・WEB上のウォーキングマップに歩数を入力(2023年度は東海道五十三次(日本橋～三条大橋)約72万歩)	ア,ク	・健保連愛知連合会の事業に参加(共同実施)	220	-	-	-	-	-	・ウォーキングを通じ、運動の楽しさと心身のリフレッシュを実感いただき運動習慣化へと導く	<生活習慣：運動> ・「歩行または同等の身体活動を1時間/日以上”実施していない人“」の割合が、女性の全年齢層で他健保平均を上回っている <生活習慣病リスク：肥満> ・腹囲BMIともに、本人の30歳以降において基準値以上該当者割合が他健保平均を上回っている(将来の特定保健指導対象者予備群) ・女性の30～34歳 54～59歳の腹囲、30～34歳 40～44歳 50～54歳のBMIの基準値以上該当者割合が他健保平均を上回っている	
案内実施率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)												運動習慣の重要性(必要性)の意識向上率(【実績値】- 【目標値】令和6年度：70% 令和7年度：70% 令和8年度：70% 令和9年度：70% 令和10年度：70% 令和11年度：70%)					・参加者アンケートで、イベント前後で「メタボ改善・予防の必要性」「体力の維持向上の重要性」に関する意識に変化があったかを確認				
その他	5,8	既存	契約保養所	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ケ	・健保ホームページにリンクの申込サイトから各自が申込み	シ	・予約業務は外部委託(リゾートトラスト)	597	-	-	-	-	-	・心身のリフレッシュ、健康保持増進	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)	
HP等の媒体による広報回数(【実績値】- 【目標値】令和6年度：6回以上 令和7年度：6回以上 令和8年度：6回以上 令和9年度：6回以上 令和10年度：6回以上 令和11年度：6回以上)HP、労報、機関誌にて加入者へ広く案内												定量的な評価が難しいため(アウトカムは設定されていません)									

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業
 注2) 1. 健保組合 2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用 3. 健保組合と事業主との共同事業
 注3) ア. 加入者等へのインセンティブを付与 イ. 受診状況の確認(要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況) ウ. 受診状況の確認(がん検診・歯科健診の受診状況) エ. ICTの活用 オ. 専門職による健診結果の説明 カ. 他の保険者と共同で集計データを持ち寄って分析を実施 キ. 定量的な効果検証の実施
 ク. 対象者の抽出(優先順位づけ、事業所の選定など) ケ. 参加の促進(選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備) コ. 健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ. 就業時間内も実施可(事業主と合意) シ. 保険者以外が実施したがん検診のデータを活用 ス. その他
 注4) ア. 事業主との連携体制の構築 イ. 産業医または産業保健師との連携体制の構築 ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築 エ. 他の保険者との健診データの連携体制の構築 オ. 自治体との連携体制の構築 カ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築 キ. 保険者協会との連携体制の構築 ク. その他の団体との連携体制の構築
 ケ. 保険者内の専門職の活用(共同設置保健師等を含む) コ. 運営マニュアルの整備(業務フローの整理) サ. 人材確保・教育(ケースカンファレンス/ライブラリーの設置) シ. その他